

名大トピックス

NAGOYA UNIVERSITY TOPICS

No.290

2017年7月

第58回名大祭「興名盛大」を開催



目次

●ニュース	
第58回名大祭「興名盛大」を開催	3
名誉教授称号授与式・懇談会を開催	4
鵜飼正俊様及び鳥居祝子様へ紺綬褒章を伝達	5
松坂屋名古屋店と包括連携協定を締結	5
「第1回ビジネスプランコンテスト」を開催	6
全学同窓会関西支部第12回総会を開催	6
株式会社デンソーと共創教育及び価値創造に関する連携協定を締結	7
ジェンダーサミット10に参加	7
第1回名古屋大学同窓会サミットを開催	8
全学同窓会遠州会支部第12回総会を開催	8
働く女性のパワハラ防止講演会を開催	9
理化学研究所と連携・協力の推進に関する基本協定を締結	9
東海地区の8国立大学法人が大規模災害対応に関する協定を締結	10
夏期のキャンパスクリーン（屋外清掃）を実施	10
●知の未来へ	
賭け事とランダムウォーク	11
中島 誠（大学院多元数理科学研究科准教授）	
●知の先端	
「価格転嫁」のメカニズムと実態の理解に向けて	12
安達 貴教（大学院経済学研究科准教授）	
●部局ニュース	
第27回理学懇話会を開催	14
先進科学塾@名大の第15回講座「錯視・錯覚の科学」を開催	14
医学部医学科保護者懇談会を開催	15
企画展「帝国大学へあと一步―官立名古屋医科大学の八年―」と特別講演会を開催	15
第53回地球教室「ナゴヤで化石をさがそう！」を開催	16
「名古屋大学モンゴル国立教育大学子ども発達共同支援センター」開所1周年記念シンポジウムを開催	16
●受賞者一覧	17
●本学関係の新聞記事掲載一覧 平成29年5月16日～6月15日	22
●イベントカレンダー	26
●ちょっと名大史	
学生の東海地域出身率100年の変遷	28

第58回名大祭「興名盛大」を開催





- 1
- 2
- 3
- 1 メインストリートゲート
 - 2 よさこい企画「らんまつり」
 - 3 後夜祭フィナーレ

第58回名大祭が6月8日(木)午後から6月11日(日)までの4日間、「興名盛大」をテーマに東山キャンパスで開催されました。今年のテーマには、日頃から、研究室やサークルでの活動で蓄え内に秘めたエネルギーを、この名大祭で盛大に、燃え尽きるまで出し切ってほしいという思い、そして、この名大祭という名の『名大興し』に懸ける学生たちの熱や勢いをたくさんの人々に感じてもらいたいという思いが込められています。

本祭開催に先立ち、5月21日(日)には名大祭のプレ企画として恒例の「仮装行列」が白川公園と栄周辺で行われ、参加した学部1年生がクラスごとに仮装し、栄の街を練り歩きました。

本祭初日となる8日(木)は、授業の終わった学生がオープニング企画へと足を運ぶ姿が多く見られ、名大祭の開催を全身で感じているようでした。夜に行われた「当夜祭」のダンスコンテストでは各チームから多様なジャンルのダンスが披露され、初日の夜を盛り上げました。

9日(金)は2年連続の晴天となり、学内各所でここ数年とは雰囲気の違いが感じられました。特に近隣町内会の方々の協力のもと、第3グリーンベルトにやぐらを組んで行われた「盆踊り」は、本学学生のみならず、お子様連れの家族や友達と遊びに来た小学生なども多く見受けられ、学生と

地域の方々との交流が盛んに行われる場となりました。

10日(土)、11日(日)は北側メインストリートに飲食物を扱う模擬店が並び、千種保健所の助言を得た厳しい衛生管理体制のもと、32団体の学生等による活気ある呼び込みで大いに賑わいました。

今年度の学術講演会企画は10日(土)に行われ、JAXA 職員であり本学卒業生の岩田直子氏により『宇宙に届け！文学少女の夢』という題目で講演が行われました。学生を中心に幅広い年齢層の方が会場を訪れ、日常では触れることの少ない宇宙についての話や、かつて文学少女だった岩田氏が宇宙に魅せられたエピソードに興味深く聞き入っていました。

また、4年ぶりとなる学術総合企画が11日(日)に行われました。4種類に分けられた『時代』にまつわるブースでは、各時代の発明や発見を実際に目で見て体験している来場者も多く見られ、普段では得られない体験に驚いていました。

来場者参加型企画として4日間を通して行われたモザイクアート企画では、200~300人もの来場者や有志団体を撮影した写真で大きさ約2m×4mの巨大なモザイクアートが出来上がり



ました。

その他にも様々な企画が学内各所で行われ、特にメインステージで行われたよさこいやダンスなどのパフォーマンスは多くの来場者を魅了し、発表者自身も来場者と共に楽しむ姿が見受けられました。また、開催期間中の第1グリーンベルト周囲にはLEDイルミネーション装飾が施され、名大祭の夜を彩りました。

最終日となる11日(日)の夜には、第58回名大祭を締めくくる「後夜祭」がメインステージで行われ、冒頭ではジャズの演奏が来場者を引き込み、来場者参加型の企画が行われた後、毎年恒例の火舞パフォーマンスが最後の時を盛り上げ、その火が消えるとともに今年の名大祭の幕が閉じました。

今年度は推計8万人の人々が来場し、多くの学生や来場者による醒めようのない盛り上がりを感じられる名大祭となりました。

名誉教授称号授与式・懇談会を開催



記念撮影



名誉教授の称号授与

名誉教授称号授与式が、5月23日(火)、豊田講堂第1会議室において挙行されました。

名誉教授の称号は、本学教授として7年以上勤務し、教育上又は学術上特に功績のあった方等に授与するもので、今回新たに28名(新制計1,264名)の先生方に授与されました。

授与式では、出席した18名の新名誉教授に、松尾総長から辞令書が授与され、永年にわたり本学の教育・研究の発展に多大なる貢献をされたことへのお礼と、お祝いの言葉がありました。続いて、新名誉教授を代表して國枝秀世名誉教授から謝辞がありました。

その後、シンポジオンホールにおいて、名誉教授懇談会が約80名の参加を得て開催されました。懇談会は、新名誉教授の紹介で始まり、昨秋からの叙勲等受章者、役員・部局長の紹介に続いて、総長からのあいさつとこの1年の本学の動き等について報告がありました。その後、名誉教授を代表して山下興亜名誉教授から近況報告及び大学への助言等があり、続いて、元総長である平野眞一名誉教授の発声で乾杯が行われ、参加者は、終始和やかな雰囲気の中で懇談しました。

今回、新たに名誉教授の称号が授与されたのは、次の方々です。

大学院文学研究科	小川正廣	大学院医学系研究科	植村和正	大学院国際言語文化研究科	越智和弘
大学院文学研究科	町田健	大学院医学系研究科	木内哲也	大学院国際言語文化研究科	河村雅隆
大学院教育発達科学研究科	野口裕之	大学院医学系研究科	小寺吉衛	大学院国際言語文化研究科	福田真人
大学院教育発達科学研究科	松田武雄	大学院医学系研究科	伴信太郎	大学院環境学研究科	伊藤義美
大学院法学研究科	紙野健二	大学院工学研究科	田川智彦	大学院環境学研究科	清水裕之
大学院理学研究科	國枝秀世	大学院工学研究科	堀添浩俊	大学院環境学研究科	田中重好
大学院理学研究科	神山勉	大学院工学研究科	松村年郎	大学院情報科学研究科	安本雅洋
大学院理学研究科	田原譲	大学院多元数理科学研究科	大沢健夫	未来材料・システム研究所	余語利信
大学院理学研究科	福井康雄	大学院多元数理科学研究科	金井雅彦		
大学院理学研究科	松本邦弘	大学院国際言語文化研究科	飯野和夫		

(授与番号順、敬称略)

鵜飼正俊様及び鳥居祝子様へ紺綬褒章を伝達

平成28年10月に鵜飼正俊様から、また、平成28年8月には鳥居祝子様から名古屋大学基金へ多額の寄附をいただきました。この寄附は、紺綬褒章の授与対象となり、閣議決定の上、公布されました。

これを受けて、4月14日(金)に松尾総長が鵜飼医院を訪れ、鵜飼正俊様に紺綬褒章(褒章、褒状及び賞杯)の伝達を行いました。

また、5月10日(水)には、鳥居祝子様のご自宅を訪れ紺

綬褒章(褒状)の伝達を行いました。

紺綬褒章とは、公益のために私財(個人500万以上、団体1,000万以上)を寄附した方に授与されるものです。名古屋大学基金は、いただいた募金を運用し、その運用益で、本学の学生への奨学支援を中心に活用しています。今後とも引き続きご支援くださいますよう、お願い申し上げます。



鵜飼正俊様への伝達の様子



鳥居祝子様への伝達の様子

松坂屋名古屋店と包括連携協定を締結

株式会社大丸松坂屋百貨店松坂屋名古屋店との包括連携協定調印式が、5月11日(木)、NIC 1階 Idea Stoaにおいて執り行われました。本協定は、文化、産業、教育、学術等の分野で相互に連携し、地域の発展と人材の育成に寄与することを目的としています。本学が百貨店と包括連携協定を締結するのは初めてです。

包括連携のビジョンは、「ICT活用による、サービスイノベーションとエリア魅力開発～情報おもてなし都市・なごやの創造～」です。文理にわたる研究開発力に強みをもつ本学と、老舗百貨店として名古屋の消費文化を支え地域に貢献してきた松坂屋名古屋店がタッグを組み、最先端のICT技術を活用して、人々をおもてなしするサービスイノベーションを起こし、栄エリアや名古屋の魅力開発を行います。具体的には「ICT活用による、栄エリア活性化研究」、「ICT活用による、百貨店の新規マーケティング／デジタルプロモーション開発研究」、「ICT活用による、名古屋魅力向上に向けた文化創造・発信研究」、「ICT活用に向けた、人材交流・育成」に取り組めます。

調印式では、松尾総長と、近藤保彦松坂屋名古屋店店長が、包括連携協定書に署名し、握手を交わしました。総長は、「栄エリアをフィールドとした多彩な研究や事業を進め、名古屋の魅力開発に貢献していきたい」とあいさつしました。近藤店長は、「JFRグループビジョン『暮らしの新しい幸せを発明する』の実現のため、今回の包括連携が大きなチャンス・チャレンジである」とあいさつしました。今後、両者は広範な領域において、連携事業を進めていきます。



総長の他、村瀬情報学研究科長、遠藤 守情報学研究科准教授らが列席

「第1回ビジネスプランコンテスト」を開催

「第1回ビジネスプランコンテスト」が、5月20日(土)、本学で開催され、東海地区の学生、企業関係者、マスコミと総勢90名が参加しました。

コンテストは東海地区の学生を中心としたチームで募集を行い、本学をはじめ、岐阜大学や名古屋工業大学など近隣の大学など13チームが参加しました。



ビジネスプランコンテストの様子

当日のコンテストでは、東海地区を盛り上げるための事業プランや、近年問題となっている留学生の就職問題に着目した事業プランなど、それぞれ特色のある事業プランが持ち寄られ、熱の入ったプレゼンテーションで会場を沸かせました。審査員には主催の学術研究・産学官連携推進本部の財満本部長ほか、トップレベルの起業家（イノベーター）や投資家を招き、市場規模の現状や類似事業との差別化などを問う鋭い質問が交わされました。参加チームにとっても、プランを事業化する上での実践的なアドバイスを得られる場となりました。

また、優秀なビジネスプランを発表した5チームには、奨励金として50万円が授与されるとともに、イノベーターが半年間メンタリングをするなど、事業としての精度を高めていくためのバックアップ支援も、今後継続して行われます。

学術研究・産学官連携推進本部は、東海地区の起業家育成の拠点として「Tongali（とんがり）プロジェクト」を昨年立ち上げました。本コンテストは、今後の東海地区の起業家創出の礎として試みられたもので、今回の事業プランへの期待からも、その追い風としての機運が高まっています。

全学同窓会関西支部第12回総会を開催

名古屋大学全学同窓会関西支部第12回総会が、5月20日(土)、大阪市内の中央電気倶楽部において開催され、会員60名が出席しました。

総会では、関電プラント株式会社相談役である藤井眞澄全学同窓会関西支部長の開会あいさつで始まり、その後、三菱重工業株式会社執行役員フェロー防衛・宇宙セグメン



二村氏による講演の様子

ト技師長である二村幸基氏の講演会が行われました。

二村氏の講演では、日本のロケット打ち上げシステム開発や国際宇宙ステーションの日本実験モジュール(きぼう)など、ユーモアを交えながら、大変わかりやすく話されました。自身が担当したH-Iロケット、H-IIロケットなど現在のロケットに至るまでの開発秘話、ロケット発射時の緊張感など、会員にとって日常とはかけ離れた新鮮な刺激にあふれ、大変好評を博しました。

休憩をはさんだ後、松尾総長から、「名古屋大学のMIRAI」と題し、大学の情勢や今後の目標について報告がありました。引き続き、昨年新代表幹事として就任した和田壽弘全学同窓会代表幹事から、全学同窓会の昨年度の活動、今年度の事業計画等について報告がありました。

また、今回の総会では、新たに名大オリジナルグッズとして商品化されたノリタケ製カップの販売を行いました。本学の建物が描かれたマグカップやカップ&ソーサーに関心を持った方も多く、十数名の会員が購入しました。

総会・講演会後の懇親会には43名が参加し、協田喜智夫事務局長の進行により、部局支部同窓会の代表者から近況報告があり、大変和やかなうちに終了しました。

株式会社デンソーと共創教育及び価値創造に関する連携協定を締結

本学と株式会社デンソーは、5月23日(火)、株式会社デンソー本社において、共創教育及び価値創造の推進に関する協定を締結しました。

この締結により、今までにない人材育成の取り組みとして、企業と大学の相互の人的資源を有効に活用し、学部・大学院における全学教育プログラムを開発して、価値創造



調印式の様子

型人材を育成するとともに、教育を通して未来社会における価値創造に向けた学術を連携して推進します。

また、世界有数のモノづくり地域の企業と総合大学の強みを生かして、文系・理系を融合したこれまでにない教育研究プログラムを開発し、メディチ効果を創発することによって、従来の課題解決型人材を超えた「価値創造型人材」、つまり未来の人類社会をけん引するリーダーを育成します。

さらに、相互の情報交換及び意見交換によって研究シーズの探求を行い、「移動体と人との融和」などをテーマに、10年から20年先に必要な技術を予測し、情報化社会及び高齢化社会における生活環境や基盤整備に関する諸課題への対応について、共同研究等により人々の価値評価軸を変えるような新たな価値の創造に繋がります。

連携による取り組みの第一弾として、今夏には、学部学生・大学院生を対象に発想の転換から生み出される未来を切り拓く研究テーマの創出を目指した価値創造型サマーキャンプ「ころたま(コロンブスのたまご)塾」を、文理融合の新型教育プログラムとして、株式会社デンソーの施設を活用し、「認定プロフェッショナル」人材と共創して実施します。

ジェンダーサミット10に参加

ジェンダーサミット10が、「ジェンダーとダイバーシティ推進を通じた科学とイノベーションの向上」をテーマに、5月25日(木)、26日(金)の両日、一橋講堂において開催されました。ジェンダーサミットは、ジェンダー・ギャップを重要な問題と捉え、研究とイノベーションの向上を目指し、欧州委員会が中心となって2011年に発足しました。



ジェンダーサミットの名古屋大学ブース

現在は、欧州・米国に次いで、アフリカ、アジアへと拡大し、世界規模で年に2回行われています。今回の東京でのサミットは、アジアで二回目の開催となりました。

東京でのサミットの目指すところは、ジェンダー視点をあらゆる局面に含め、それを科学的かつ実証的に議論しながら、現代社会に果たす科学の責任を再検証し、日本を含むアジア全体の提言としてまとめ、広く世界に発信することです。具体的には、1)ジェンダーの歴史と未来、2)アジアにおける深刻な問題への女性の貢献、3)ジェンダーに基づくイノベーション、4)科学の社会的責任の4つがメインテーマに設定されました。サミットには、約600名の来場があり、2日間を通じて活発な議論が展開されました。ジェンダー平等を大学の重要課題として捉えている本学は、サミット会場でブース及びポスター・セッションを行いました。これらの場所では、本学のジェンダー平等に向けた推進活動、博士課程教育リーディングプログラム「〈ウェルビーイング in アジア〉実現のための女性リーダー育成プログラム」及び HeForShe の紹介を行いました。また、25日夜のレセプションでは、松尾総長が本学の HeForShe の取り組みについて、スピーチを行いました。

第1回名古屋大学同窓会サミットを開催

部局同窓会と全学同窓会による第1回名古屋大学同窓会サミットが、6月3日(土)、野依記念学術交流館において開催されました。サミットには学部や研究科の同窓会だけでなく、独立して活動している学科や専攻の同窓会の会長及び事務局長に加え、松尾総長、木村理事、磯谷理事などの大学役員からも出席し、総勢48名となりました。



サミット会場の様子

15年前の全学同窓会設立時より、部局同窓会と全学同窓会は、お互いに協力はするものの独立して運営されています。これまで全学同窓会の評議員会・幹事会に、部局同窓会の委員を出してもらうなどの協力関係は良好に続いてきましたが、部局・学科等同窓会の役員と全学同窓会の役員及び大学役員との合同の交流はありませんでした。

最近の大学及び部局の財政困難な状況に対応して、従来の名古屋大学基金の中に、寄附金の8割を目的使用とする特定基金ができました。その中に困窮学生を支援し、税額控除が可能な修学支援寄附なども始まり、部局・学科等同窓会も部局及び大学本部とも協力して活動しなければならない状況に至り、今回の本サミットが企画されることとなりました。また、部局等同窓会や全学同窓会の活動状況の情報共有もこのサミットの重要な目的の1つです。

サミットでは、各同窓会からの様々な課題提議があり、各々の課題に対する情報共有、意見交換が活発に行われました。本サミットは大変有意義であったため、来年度以降も年1回開催し、また、各同窓会の実務担当者による情報交換会をウェブなども利用しながら実施するなど、発展的継続が確認された後、サミットは終了しました。

全学同窓会遠州会支部第12回総会を開催

名古屋大学全学同窓会遠州会支部第12回総会・第22回同窓会懇親会が、6月10日(土)、浜松市内のホテルにおいて開催されました。来賓として松尾総長と伊藤義人全学同窓会副会長、和田壽弘同代表幹事を迎え、会員70名が出席し、開催にあたり豊田章一郎同会長から祝電が届きました。

最初に出席者の集合写真を撮影し、南方陽会長のあいさつの後、総長から松尾イニシアティブ「NU MIRAI 2020」における教育・研究・国際化・産学連携・組織改革などの各テーマの進行状況、さらに大学を取り巻く環境につい

て、資料を配布しての詳しい説明がありました。和田代表幹事からは自己紹介、全学同窓会の活動全般と財政上の課題について説明があり、伊藤副会長は同窓会サミット、大学と学生への支援基金制度について話されました。

その後、大久保忠訓遠州会名誉会長の乾杯発声で懇親会が始まり、浜松医科大学の管弦楽団4名の学生による演奏で和やかに進行しました。1年ぶりの再会もそこかしこにあり、老若男女が楽しい時間を過ごし、長嶋孝昌副会長による中締めで終了しました。



出席者集合写真 (S48年以前卒業)



出席者集合写真 (S49年以降卒業)

働く女性のパワーハラ防止講演会を開催

「働く女性のパワーハラ防止～妊活ハラスメントからマタハラ・育ハラまで～」と題した講演会が、6月10日(土)、野依記念学術交流館カンファレンスホールにおいて開催されました。本講演会は公益財団法人野村財団の「女性が輝く社会の実現」をテーマにした講演会等助成を受けて開催されたものです。対象は近隣の大学や企業においてハラス



トークセッションの様子

メント対策に携わる方や、一般市民の方々に136名の参加がありました。また今回実施した託児サービスには、6組7名の申し込みがありました。

講演会の前半においては、2名の講師による講演が行われました。上野千鶴子東京大学名誉教授が「セクハラ対策 東京大学の経験」、小酒部さやか株式会社 natural rights 代表取締役が「マタニティハラスメントとは」という演題で、それぞれの立場から働く女性へのパワーハラメントに関する講演を行いました。

講演後のトークセッションでは、講師らと東村博子生命農学研究科教授・男女共同参画室室長により、マタハラをはじめとしたファミリーハラスメントや働き方への差別、マミートラック、男性稼ぎ主型モデル等に関する活発な議論が交わされました。また、フロアからも時間いっぱいまで様々な意見や質問があり、「大変興味深かった」、「もっと聞きたかった」などの声も寄せられ、ハラスメント問題と働き方への関心の高まりが感じられました。

理化学研究所と連携・協力の推進に関する基本協定を締結

本学と国立研究開発法人理化学研究所（以下、「理研」）は、6月13日(火)、学術総合センターにおいて、松尾総長と松本 紘理研理事長が出席し、連携・協力の推進に関する基本協定を締結しました。本協定の締結により、両機関が持つ研究力、研究環境及び人材を活かした連携・協力の新たな枠組みを構築し、両機関の総合力を相乗的に発揮す



総長と松本理研理事長らによる調印式

ることによって、我が国の学術及び科学技術の振興や教育の発展に重要な役割を果たしていくことが期待できます。

大学院生命農学研究科とトランスフォーマティブ生命分子研究所は、理研環境資源科学研究センターとそれぞれ個別に協力してきましたが、これらを発展的に統合して3者連携とし、基礎植物科学と作物育種学、天然物化学と合成化学など、さまざまな組み合わせの融合分野を開拓して推進します。また、大学院情報学研究科附属価値創造研究センターと理研革新知能統合研究センターは、「マニファクチュア・インフォマティクスによる製造革命のための基盤技術の構築」をテーマとする全く新しい研究プロジェクトの検討を始めており、今後、具体化に向けて取り組んでいきます。いずれの協力分野においても、大学内に連携スペースの設置を検討中で、連携研究の効率的な推進や人材交流、連携分野の拡大に活用する予定です。

両機関の協力可能な全ての分野を対象とする包括的な協定を結び、新たな連携課題のみならず、これまで積み重ねてきた広汎な分野での協力をベースとして、より相乗効果の高い全機関的な連携・協力で発展させていきます。

東海地区の8国立大学法人が大規模災害対応に関する協定を締結

本学を含む東海地区の8国立大学法人(本学、岐阜大学、静岡大学、浜松医科大学、愛知教育大学、名古屋工業大学、豊橋技術科学大学及び三重大学)は、6月14日(水)、学士会館において、大規模災害対応に関する協定を締結しました。

本協定は、南海トラフの巨大地震など広域にわたる大規



締結式で握手する東海8国立大学長

模な自然災害も想定して、各大学がいずれも被災する厳しい状況を含めた「災害時の連携・協力」と、そのための「平常時の相互協力」を推進するものです。東海8国立大学ではこれまでも、各大学で防災体制の整備を行い、情報交換を実施してきました。本協定により、被災時の連携体制の構築と人員・資機材・施設の相互提供、平常時の講習や訓練の共同実施など、さらに進んだ防災連携協力を目指すこととなります。

締結式の記者会見では、会場から多くの質問があり、各学長から大学の状況を踏まえたコメントが出されるなど、本協定への関心の高さがうかがえました。

大学は、災害発生時においても構成員の安全を守り、高度教育・先端研究の機能を維持して、社会に貢献することが求められています。本協定により効果的な準備を進めることが期待されます。

夏期のキャンパスクリーン（屋外清掃）を実施

夏期の環境美化週間（キャンパスクリーン）が、6月12日(月)から16日(金)までの5日間、実施されました。

これは環境保全に対する関心を高めるために平成元年から実施されており、全学の教職員及び学生の協力を得て、例年、環境月間である6月と12月の年2回行われています。



各自の持ち場で清掃を行う職員

事務局では14日(水)午後、梅雨入り後とは思えない真夏のような陽気の中、各部の部課長を含む190名余りの職員が参加し、東山キャンパス構内の他、地域社会の構成員として近隣学区の環境美化に貢献するため、本学の構内だけでなく付設する市道や本学外周についても併せて清掃を行いました。

参加者は気温が30度を超える中、汗をかきつつ普段からなじみのある場所で拾った様々な種類のごみを、用意された袋へ集めていました。

本学では、年2回のキャンパスクリーン（屋外清掃）を実施することにより、今後も「ゴミのないきれいなキャンパス」を目指していきます。

賭け事とランダムウォーク

中島 誠
大学院多元数理科学研究科准教授

れる” グラフをブラウン運動と呼び、現在では金融工学の分野の研究でも使われるなど様々な分野で活躍しています。

私の専門は確率論の中の統計力学と呼ばれる分野になります。統計力学とは物質の巨視的な性質を分子レベルの微視的な立場から調べる研究で、例えば水は温度の変化で固体、液体、気体と形状が変化しますが、これを統計力学では各分子が相互作用をしながらランダムな運動していると考えて、相互作用の強さと水分子の運動の関係をランダムウォークやブラウン運動などを用いて研究します。

さて冒頭で述べた問題のおおまかな答えを与えておきましょう。公平なゲームならば破滅する前に200ドルになる確率は1/2になりますが、1回のゲームで勝つ確率が0.48のときは0.001より小さくなります(図2、図3)。

確率の考えがよく使われるモデルとしては賭け事があるかと思います(歴史的に見ても賭け事の計算は確率論の発展に重要な寄与をしました)。例えばラスベガスのカジノで、所持金100ドルから毎回1ドルずつ賭けて勝ったら1ドルもらい、負けたら1ドル支払うということを繰り返したとき、破産するまでに所持金が200ドルになる確率はいくらでしょうか。この確率は数学を用いて計算することができます。答えは最後に述べるとして、このゲームで所持金の推移(負の所持金を含めてn回ゲームを行ったときの所持金の増減を S_n で表す)を折れ線グラフに表すと非常にギザギザしたグラフが現れます(図1)。 S_n をランダムウォークと呼ぶのですが、これを“非常にたくさんの回数”行ったときの推移を調べるために数学では極限を使って近似します。公平なゲーム(勝つ確率が1/2) n回までのグラフを横軸を1/n、縦軸を $1/\sqrt{n}$ 倍してnを大きくしたときに“得ら

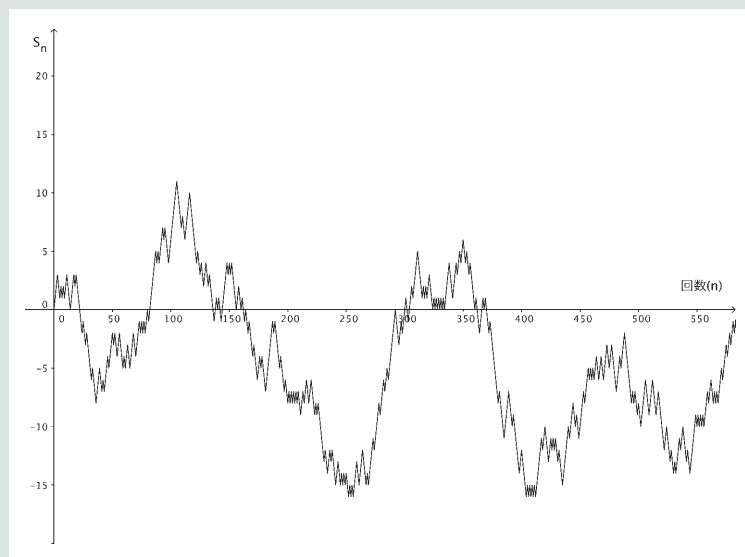


図1 S_n の推移グラフの一例

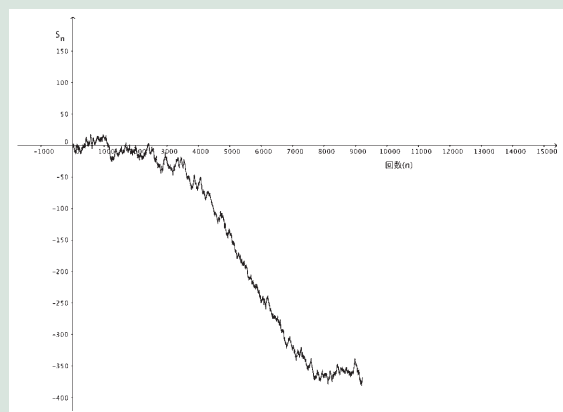


図2 勝つ確率が0.48のときのランダムウォークの推移グラフの一例

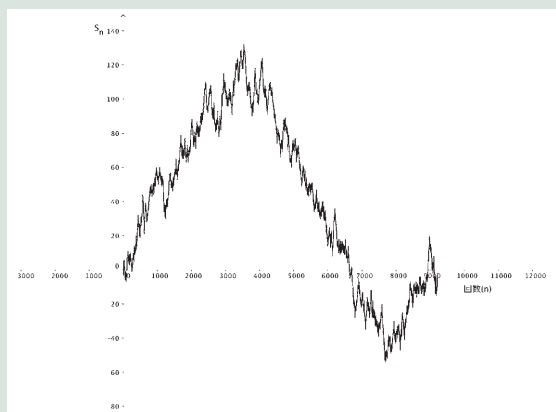


図3 勝つ確率が0.5のときのランダムウォークの推移グラフの一例

「価格転嫁」のメカニズムと実態の理解に向けて

安達 貴教 大学院経済学研究科准教授

ビールに支払う価格のどれだけを税金が占めているかご存知でしょうか。国税庁の「酒税一覧表」によれば、500mlのビールに対しては110円の酒税が課されることが分かります。このように、量に対して税額が定められている税は「従量税」と総称されます。加えて別途、消費税も課されています。これは本体価格に1.08を掛けたものが税込み価格となるように決まりますので、税込み価格が例えば258円の場合、酒税110円を差し引いた148円中、消費税分は10.96円となっています。このように、価格に対してパーセンテージで上乘せの税額が定められている税を総称して「従価税」と呼びます。以上をまとめますと、500mlの缶ビールを258円で購入した時、消費者は110+10.96=120.96円（258円中約47%！）を税金として支払っており、小売店の取り分は137.04円ということになります（もちろん小売店は卸売業者あるいは製造業者に仕入価格を支払っていますから、実際に手元に残る額はこれより小さくなります）。

こういった個々の消費者の支払いが合わせあつて国全体のビールからの税収となります。それでは、ビール1リットル当たり220円の酒税を仮に230円にした場合にはどうなるのでしょうか。仮想的な数字として、ある時期においてビールが100万リットル売れているとすると、酒税が220円

の時は、その時期における税収総額は220×100万円、即ち2億2000万円となります。では税額アップ後は、それに伴う販売量の落ち込みが1%に留まり99万リットルにしか下がらなかったとすると、税収総額は2億2000万円から2億2770万円に増加することが（簡単な計算から）分かります。

課税の議論では政府の税収に焦点が当てられることが多いですが、税額アップの際、我々消費者の満足度への影響はいかほどのものなのかも気になるところです。消費者が全体としてどれだけの不利益を被ったことになるのか、それを金銭換算して税収の増加分と比較できないものでしょうか。消費者だけではありません。税額の変化は、生産者の利潤にも自身の価格付け行動を介して影響を与えます。具体的な数字を伴いながらそのような比較衡量の議論を行うことが出来れば、広く政策に対する我々市民の「コスト感覚」はより研ぎ澄まされてゆくものと期待されます。

以上は具体例として酒税を取り上げましたが、一般的に、税額の変更といったような経済的環境の変化が最終的な消費者価格にどう影響するのは、経済学において「価格転嫁」(pass-through)の問題と総称されます。ビール産業のみならず、限られた少数の企業が支配的であるような不完全競争(imperfect competition)の状況が当てはまる産業は少なくないと考えられますが、このよう

な不完全競争下における価格転嫁のメカニズムの一端は、2013年にグレン・ワイル氏とミハル・ファビンガー氏によって発表された研究成果([1])によって明らかにされました。但し同研究では、上述の例に即せば、税の種類は、酒税のような「従量税」しか考慮されていません。ファビンガー氏と私は現在、「従量税」のみならず消費税のような「従価税」も存在している状況を分析出来るような、より一般的なフレームワークの提示を目指した研究を行っているところです([2])。

$$\text{社会的コスト} = \frac{\text{社会的価値(消費者便益と生産者利潤の和)の減少分(絶対値)}}{\text{税収の増加分}}$$

$$= \frac{\theta \left[\left(\frac{1}{1+v} \right) \times \frac{1}{\epsilon} + \left[\frac{v}{1+v} + \frac{t}{p} \right] \right]}{\left(\frac{1}{p} + \frac{v}{1+v} \right) \times \frac{1}{\epsilon} - \left[\frac{v}{1+v} + \frac{t}{p} \right]}$$

(1) 消費による満足の低下分と、企業の生産減少に伴う費用節約分の和（「価格×数量」の売上分は、消費者側から生産者側への「移転」なので、企業も含めた社会全体を考える時は相殺されます）

(2) 税額アップによる税収増加分

(3) 販売量ダウンによる税収減少分

図1 従量税1円上昇に伴う「社会的コスト」

$$\text{生産者利潤の減少分：消費者便益の減少分(絶対値)}$$

$$= \left(\frac{1}{p} - \frac{1-\theta}{1+v} \right) : 1$$

図2 消費者サイドの損失分と比べた場合の生産者サイドの損失分

その一端を紹介しますと、再び上述の例に即せば、消費税の税率8%は変化せず、酒税220円が221円に1円分上昇した時、税収の増加分に対する、社会的価値（消費者便益と生産者利潤の和）の減少分は図1のような式で表されることが示されています。ここでは、前提として、より複雑で現実的状况を分析する準備段階として、各企業は、全く同じ人造人間がコピーされて複数いるといったようなイメージの「対称的」なもので、また各企業は自社の代表的ブランド一類の商品のみを生産していると仮定しています。この式で、 v は消費税率（小数点表示）、 t は単位当たりの従量税額で、ビールの例ですと、 $v=0.08$ 、（単位を500mlとすると） $t=110$ が代入されます。また、 p は最終価格であり、上記の対称性の仮定を利用して、全ての企業が同じ価格（上の例ですと258円）を付けているとしています。

その他、税額アップに伴う「社会的コスト」算出のためには、 θ 、 ϵ 、 ρ の値が必要で、これらはそれぞれ、産業における競争の程度を表す数値、消費者価格が1%上昇した時に何%売上量が減少するかの数値、そして、酒税が1円上昇した時に消費者価格が何円上昇するかの数値（これが「価格転嫁」の指標です）に対応しています。特に θ は0から1までの値を取り、1に近いほど不完全競争の度合いが大きい（即ち、独占の状況に近い）ことを意味しています。このようにして、税額アップに伴う「社会的コスト」を不完全競争の程度に関係付けて議論することが可能になります。また、酒税増税に伴う消費者便益の減少分と生産者利潤の減少分は、図2のように比較されることも示されています。消費者便益は必ず減少するものの、生産者利潤は場合によっては上昇することもあることが分かり、このようにして、上で示唆したような「コスト感覚」に関わる比較衡量が可能となります。では肝心の ρ 、即ち、価格転嫁の値はどのように予測されるのが問題となりますが、紙幅の都合上、より重要な論点であるその社会的帰結に焦点を当てました。

今後の研究の展開としては、実世界データを用いて具体的な数値を伴うような議論を展開したり、また、課税以外の様々な経済的環境の問題にも分析を適用したりするなど、不完全競争下での

「価格転嫁」のメカニズムと実態をより詳細に解明し、「消費者利益・不利益」と「生産者利益・不利益」とを見極める。延いてはそれを礎に、公共政策や競争政策に対して世情・時流及び政局に左顧右眄することのない有益な知見を提供し、以って市民市場社会（civil market society）の発展に資するものとする。このように考えています。

今回は説明を分かりやすくするために酒税が増加する場合を考えましたが、現実にはビールに対する税額は、いわゆる発泡酒や第三のビールに対するそれと統合するために今後段階的に引き下げられていく予定です（国税庁ウェブサイト「酒税法等の改正のあらまし」（平成29年4月））。この帰結を総合的に議論・評価するためには経済学に基づく分析が有効となります。経済学が有益なのは、「マネジメントの論理」のみならず消費者の側にも目配せをするというバランスの良さにあります。特定主体側の損得のみへの執心という視野偏狭を免れ、算盤勘定や文書解釈のみに獅子奮迅するだけでは決してその片鱗すら垣間見ることままならない「天下国家のロジック」をクールに仔細観察かつ眺望俯瞰せんとする「勇気ある知識人」が、これからも経済学に魅了され続けて止まない理由がここにあります。二十歳を過ぎていれば、経済学をビールの肴にアツク語ることすら出来るかも知れません。何よりも、この肴には従量税も従価税も課されていないことはご存知の通りです。

- [1] Weyl, E.G., and M. Fabinger, 2013. "Pass-Through as an Economic Tool: Principles of Incidence under Imperfect Competition," *Journal of Political Economy*, 121(3), pp. 528-583.
- [2] Adachi, T., and M. Fabinger, 2017. "Multi-Dimensional Pass-Through, Incidence, and the Welfare Burden of Taxation in Oligopoly," Unpublished.

平成22年4月より現職。米国ペンシルヴェニア大学 Ph.D.

あだち たかのり

ひとこと：今回の執筆を機に、吉野源三郎『君たちはどう生きるか』（1937年）、の中の「人間分子の関係・網目の法則」の部分を読み返しました。当時の男子中学生の主人公が身近な観察から、自分の周りのあらゆるものが、見知らぬ多くの人たちの手によって作り運ばれ、網目のように取り囲んでいることを「発見」するくだりです。今回ご紹介させていただいた「価格転嫁」の問題は、私にとっては、この「人間同士の網目の関係」に内容とは別の意味でも関わるものです。私はこの本を20年ほど前、大学院入学を控え将来への不安募る12月に読みました。見知らぬ多くの皆様方にも支えられ、今ようやくにして、研究のスタートラインに立てるところまで漕ぎ着けられたのかも知れないことに対して感謝する他はありません。そうです。今、私は、30歳も年上の自分をこの主人公に重ね合わせている。これが上で「内容とは別の意味でも」と述べた理由です。



第27回理学懇話会を開催

●理学部

理学部は、6月3日(土)、理学南館坂田・平田ホールにおいて、名古屋大学理学懇話会を開催しました。この懇話会は今年で第27回を数え、「星と惑星が生まれるとき」と題し、最新の天文学の研究成果が報告されました。今回は、例年にも増して多くの参加者がありました。

第一部では深川美里理学研究科准教授が「惑星系の誕生



深川准教授による講演の様子

を観る」というタイトルで、近年多くの発見が報告され注目を集めている系外惑星の話題を、わかりやすく講演されました。私たちの太陽系がどのように誕生したのか、地球と似た惑星は他にも存在するのかという疑問は、専門的に科学を学んでいない一般の方々にとっても、非常に興味を引くテーマですが、実際の観測からは、太陽系とは大きく異なる惑星系がたくさん発見されています。参加者から多くの質問が出たことから、その注目度の高さがうかがえました。第二部では立原研悟同准教授が、「アルマが目撃した星の誕生」について講演しました。アルマ望遠鏡は国際共同で建設され、最新の技術を投入した人類史上最大の望遠鏡プロジェクトです。これまでの装置では見るができなかった非常に小さな構造まで分解してみることができるようになり、その結果、これまでの星形成の理論モデルも見直しが迫られています。

講演会終了後、12名の中高生たちを中心に、サイエンスカフェが開かれました。日頃から感じていた科学に対する疑問から、大学進学についての相談まで、ざっくばらんに楽しい議論が続き、終了時間を超えてしまうほどでした。

先進科学塾@名大の第15回講座「錯視・錯覚の科学」を開催

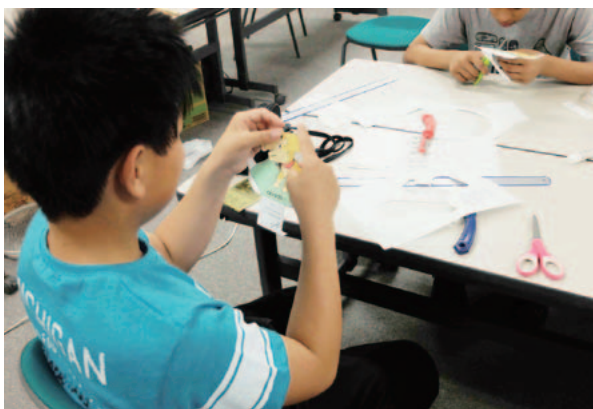
●大学院理学研究科

大学院理学研究科は、5月20日(土)、21日(日)の両日、理学部C館物理会議室において、先進科学塾@名大の第15回講座「錯視・錯覚の科学」を開催しました。

今回は、人間がモノを「見る」ということに伴う不思議な現象を実験で探りました。物理現象として発生するもの、人間の脳みそが作り出すもの、様々な錯視・錯覚を実験で体験しました。最後には見る場所を変えると首がつい

てくる様に見える「くねくねワン!」や、ものの大きさが場所によって違って見える「エイムズの部屋」を自作して、参加者は錯視・錯覚の世界を存分に楽しみました。

参加者は、中学生を中心として計39名でした。次回の先進科学塾@名大は、講演講座「素粒子で探るピラミッドの謎」を実施する予定(期日未定)です。



くねくねワン!を作成する様子



エイムズの部屋を作成する様子

医学部医学科保護者懇談会を開催

●医学部医学科

医学部医学科は、5月20日(土)、鶴舞キャンパスにおいて、医学部医学科保護者懇談会を開催しました。この懇談会は、学部1年生及び4年生の保護者を対象として、医学部医学科の実情及びその教育・研究内容等について理解を深めてもらい、大学をより身近な存在として感じてもらうことを目的として開催されたものです。同学科としては初



施設説明に熱心に耳を傾ける保護者の方々

めての保護者向けの懇談会であり、当日は178名もの参加者がありました。

懇談会は、木山副研究科長の総合司会のもと、門松医学部長及び高橋理事のあいさつに始まり、「名大医学部の教育概要」として木村 宏学部教育委員長による講演の後、「医学の道～私の医師・研究者としての生き方～」と題して荒川宜親教授、佐藤和秀特任助教による講演を行い、参加者は各講演に熱心に耳を傾けていました。最後に、大野副研究科長による「医学系未来人材育成支援事業」ご支援のお願いを含めたあいさつにて講演会が終了しました。

講演後は、臨床教育を効果的に行うために実際の医療現場を模したクリニカルシミュレーションセンターや病理・解剖の実習室、附属図書館、分析機器部門の施設見学及び医学部執行部の教員との懇談会を行いました。施設見学では、学生が日々勉学に励んでいる施設等に保護者の方々が直接触れることができました。また、懇談会においては、保護者と執行部教員との座席の距離を近くに配置し、ご子息、ご息女の将来の進路など、保護者の方々が常々気にされていることについて質疑応答が行われました。保護者懇談会は終始和やかに行われ、大変盛況でした。

企画展「帝国大学へあと一歩-官立名古屋医科大学の八年-」と特別講演会を開催

●附属図書館医学部分館

附属図書館医学部分館は、2月16日(木)から5月31日(水)までの間、企画展「帝国大学へあと一歩-官立名古屋医科大学の八年-」を開催しました。

本学の前身校である県立愛知医科大学は、東海地方に初めて誕生した大学でしたが、安定した財政確保が急務となっていました。昭和恐慌期の国庫財政を鑑み、打開策と



展示会の様子

して「帝国大学」ではなく、次善の「官立移管」として帝国議会に請願を提出したところ承認され、1931(昭和6)年5月1日、官立名古屋医科大学として発足しました。

企画展では、この官立名古屋医科大学時代(1931-1939)の教育、研究、診療、名古屋帝国大学創設について、同館4階にある医学部史料室に所蔵する関連図書などを展示公開しました。沿革などが掲載されている『名古屋醫科大學一覽』や『輸血法講習録』、卒業アルバム、桐原真一教授が開発した『桐原式軟性胃鏡』、医薬品のシールなど、当時の状況がうかがえる多彩な資料は来館者の関心を集めました。

また、会期中の5月18日(木)には、吉川卓治教育発達科学研究科教授による「医育統一・インチキ学校征伐・官立医大不振-医育の1930年代-」と題する特別講演会を開催しました。当時、医師になるには複数のルートがあり、医育統一の動きがあったこと、中学校卒業生急増への対応策として高等教育機関が増設されたもののインチキ学校が跋扈していたこと、その一方で官立医大は不振に陥っていたことなど、企画展の時代背景を解説しました。参加者からは多数の質疑があり、関心の高さがうかがえました。

第53回地球教室「ナゴヤで化石をさがそう!」を開催

●博物館

博物館は、5月20日(土)、21日(日)の両日、第53回ワールドセミナー「地球教室」を開催し、定員の2倍を超える応募者から抽選で選ばれた小学3年生から一般の方29名が参加しました。今回の内容は、名古屋駅や栄地区に出かけ、建物の石材に含まれる化石を探すというものです。

1日目は、博物館の実験室において岩石や化石の種類、



栄のオアシス21付近の地下街で化石を観察する参加者の様子

化石になった古代の生き物に関する講義を行いました。また、建材としてカットされた岩石の表面に化石がどのように表れるかを知るために、現生の貝殻を切断してできた断面を観察し、それをういたスタンプ作りをしました。

この予習を踏まえ、2日目は名古屋駅と栄地区に出かけ、ビルの壁や柱、床に用いられている石材から、アンモナイトやサンゴ、ウミユリなどさまざまな化石を見つける体験をスタンプラリー形式で行いました。通勤や買い物など、普段の生活でみなれた場所にも、意外な自然が隠されていたことに参加者は驚きながら、大変興味深く化石を観察していました。暑さの厳しい天候でしたが、見学場所を建物内や地下街にすることで熱中症対策をしました。この事業は名古屋科学館との協定事業で、愛知大学名古屋一般教育研究室の援助を受けています。

「名古屋大学モンゴル国立教育大学子ども発達共同支援センター」開所1周年記念シンポジウムを開催

●心の発達支援研究実践センター、大学院教育発達科学研究科

心の発達支援研究実践センター及び大学院教育発達科学研究科は、6月7日(水)、モンゴル国立教育大学において、「名古屋大学モンゴル国立教育大学子ども発達共同支援センター」の開所1周年記念シンポジウムを開催しました。本学から松尾総長、磯田アジアサテライトキャンパス学院長、金井心の発達支援研究実践センター長、モンゴル

国立教育大学からダバースレン・ムンフジャルガル学長、ダシドルジ・マンダホ教員養成学部長の臨席のもと、モンゴル国立教育大学教員及びモンゴル国内の特別支援教育教員約100名が参加しました。

「名古屋大学モンゴル国立教育大学子ども発達共同支援センター」はモンゴル国の子どもの発達に関する相談と研究のほか、支援人材の育成、モンゴル国における発達障害児の理解促進の拠点施設として、昨年9月にモンゴル国立教育大学内に開所しました。シンポジウムでは、野邑健二心の発達支援研究実践センター特任教授及びダンディー・オドゲレルモンゴル国立教育大学講師による、センターにおけるこの1年間の活動や研究成果の発表のあと、総長、ムンフジャルガル学長からそれぞれ、今後のさらなるセンターの発展を期待する旨の祝辞がありました。シンポジウム後には、センターの活動の一環として、シンポジウム参加者を対象に発達障害について理解を深めるための研修会を実施しました。これらの活動を通じ、「名古屋大学モンゴル国立教育大学子ども発達共同支援センター」はモンゴル国の、ひいては世界の子どもの未来に貢献していきます。



シンポジウム参加者による記念撮影(中央左総長、中央右ムンフジャルガル学長)

受賞者一覧

勲章関係等

受章日	受賞名	受賞者の所属・職名	受賞者	備考
H29. 4.29	瑞宝中綬章	名誉教授	二村 雄次	
H29. 4.29	瑞宝双光章	大学院医学系研究科助教	米田 和夫	
H29. 4.29	紫綬褒章	大学院理学研究科教授	森 郁恵	
H29. 4.29	紫綬褒章	大学院工学研究科教授	八島 栄次	

教員

受賞日	受賞名	受賞者の所属・職名	受賞者	備考
H28.12. 3	SGH 財団 第14回 SGH 看護特別賞	大学院医学系研究科教授	安藤 詳子	
H28.12. 8	ウッドデザイン賞2016	大学院生命農学研究科	都市の木質化プロジェクト	佐々木康壽（大学院生命農学研究科教授）、山崎真理子（大学院生命農学研究科准教授）、他9名と連名
H28.12.18	SI2016 優秀講演賞	未来社会創造機構特任助教	赤井 直紀	
H28.12.19	第57回日本肺癌学会学術集会 優秀ポスター賞	医学部附属病院医員	佐藤 和秀	
H29. 2.11	名古屋大学医学系研究科 医学奨励賞	医学部附属病院医員	佐藤 和秀	
H29. 2.27	コニカミノルタ画像科学奨励賞（優秀賞）	医学部附属病院医員	佐藤 和秀	
H29. 3. 2	日本計算機統計学会 平成28年度データ解析 コンペティション優秀賞	大学院情報科学研究科教授	金森 敬文	数藤光太郎（大学院情報科学研究科 M1）、森田善之（大学院情報科学研究科 M1）、松本裕哉（大学院情報科学研究科 M1）、他2名と連名
H29. 3. 2	リバネス研究費 超異分野学会賞	大学院生命農学研究科助教	野田口理孝	
H29. 3.14	応用物理学会 講演奨励賞	大学院工学研究科助教	鈴木 陽香	豊田浩孝（大学院工学研究科教授）、他4名と連名
H29. 3.14	日本機械学会 東海支部賞 奨励賞	大学院工学研究科助教	秋山 靖博	
H29. 3.15	日本鉄鋼協会 学術功績賞	大学院工学研究科教授	村田 純教	
H29. 3.15	日本鉄鋼協会 研究奨励賞	大学院工学研究科准教授	塚田 祐貴	
H29. 3.15	日本鉄鋼協会 澤村論文賞	大学院工学研究科教授	村田 純教	小山敏幸（大学院工学研究科教授）、塚田祐貴（大学院工学研究科准教授）、他1名と連名
H29. 3.15	レジリエンスジャパン推進協議会 最優秀レジリエンス賞		減災連携研究センター	他2団体と共同受賞
H29. 3.16	日本鉄鋼協会 計測・制御・システム工学部会 計測・制御・システム研究賞	大学院工学研究科准教授	浅井 徹	
H29. 3.16	言語処理学会 2016年度論文賞	大学院工学研究科准教授	松崎 拓也	佐藤理史（大学院工学研究科教授）、加納隼人（大学院工学研究科 M2）と連名
H29. 3.16	情報処理学会 山下記念研究賞	大学院工学研究科助教	櫻田 健	
H29. 3.17	日本化学会 第66回進歩賞	大学院工学研究科助教	ウヤヌクムハメット	
H29. 3.17	日本化学会 第66回進歩賞	大学院工学研究科助教	廣戸 聡	
H29. 3.18	日本化学会 第31回若い世代の特別講演会 講演賞	大学院理学研究科助教	加藤 祐樹	
H29. 3.19	日本物理学会 第22回論文賞	大学院工学研究科教授	澤 博	
H29. 3.25	2016年度日本数学会 応用数学研究奨励賞	大学院工学研究科助教	宮武 勇登	
H29. 3.26	日本衛生学会 奨励賞	大学院医学系研究科准教授	上山 純	
H29. 3.26	電気化学会 学術賞	大学院工学研究科教授	鳥本 司	
H29. 3.28	日本地理学会 日本地理学会賞（著作発信部門）	減災連携研究センター教授	鈴木 康弘	岡本耕平（大学院環境学研究科教授）と連名
H29. 3.28	日本地理学会 日本地理学会賞（著作発信部門）	大学院環境学研究科教授	横山 智	
H29. 3.28	第49回日本原子力学会賞 論文賞	大学院工学研究科教授	山本 章夫	
H29. 3.29	Janssen Biologics Best Poster Award, MSB2017 (33rd International Symposium on Microscale Separations and Bioanalysis)	大学院工学研究科准教授	加地 範匡	
H29. 3.31	Fellow, The Royal Society of Chemistry	大学院工学研究科教授	上垣外正己	
H29. 4. 3	The Most Accessed Paper Award 2017, Progress in Earth and Planetary Science	宇宙地球環境研究所教授	塩川 和夫	Hisao Takahashi（客員教授）、他6名と共同受賞

受賞者一覧

受賞日	受賞名	受賞者の所属・職名	受賞者	備考
H29. 4. 4	Best Student Paper in Herpetology published in the Journal Copeia in 2016, American Society of Ichthyologists and Herpetologists	大学院環境学研究科研究員	ノエリカント ラマモンジス	
H29. 4. 6	EPL Presentation Award 2017, Annual European Rheology Conference & Nordic Rheology Conference	大学院工学研究科研究員	バンディ アンキタ	増淵雄一（大学院工学研究科教授）と連名
H29. 4. 7	科学技術団体連合 第11回科学技術の「美」パネル展 優秀賞	トランスフォーマティブ 生命分子研究所招へい教員	水多 陽子	
H29. 4.13	Excellent Reviewer Award in 2016, Japanese Journal of Radiology	医学部附属病院病院准教授	田岡 俊昭	
H29. 4.13	Most often cited paper award in 2016, Japanese Journal of Radiology	大学院医学系研究科教授	長縄 慎二	
H29. 4.14	日本航空宇宙学会 奨励賞	大学院工学研究科講師	松岡 健	
H29. 4.15	第76回日本医学放射線学会総会 イメージ・インタープリテーション 優秀賞	医学部附属病院病院助教	櫻井 悠介	
H29. 4.19	平成29年度科学技術分野文部科学大臣表彰 科学技術賞（研究部門）	大学院工学研究科教授	石原 一彰	
H29. 4.19	平成29年度科学技術分野文部科学大臣表彰 科学技術賞（研究部門）	未来材料・システム研究所 教授	楠 美智子	
H29. 4.19	平成29年度科学技術分野文部科学大臣表彰 科学技術賞（研究部門）	大学院工学研究科教授	社本 英二	
H29. 4.19	平成29年度科学技術分野文部科学大臣表彰 科学技術賞（研究部門）	減災連携研究センター 寄附研究部門教授	武村 雅之	
H29. 4.19	平成29年度科学技術分野文部科学大臣表彰 科学技術賞（開発部門）	大学院工学研究科教授	増淵 雄一	
H29. 4.19	平成29年度科学技術分野文部科学大臣表彰 若手科学者賞	トランスフォーマティブ 生命分子研究所特任准教授	大松 亨介	
H29. 4.19	平成29年度科学技術分野文部科学大臣表彰 若手科学者賞	大学院創薬科学研究科 准教授	小坂田文隆	
H29. 4.19	平成29年度科学技術分野文部科学大臣表彰 若手科学者賞	大学院工学研究科准教授	樫田 啓	
H29. 4.19	平成29年度科学技術分野文部科学大臣表彰 若手科学者賞	大学院工学研究科講師	新津 葵一	
H29. 4.19	平成29年度科学技術分野文部科学大臣表彰 若手科学者賞	大学院生命農学研究科 特任助教	田畑 亮	
H29. 4.19	平成29年度科学技術分野文部科学大臣表彰 若手科学者賞	トランスフォーマティブ 生命分子研究所特任准教授	中道 範人	
H29. 4.19	平成29年度科学技術分野文部科学大臣表彰 若手科学者賞	未来材料・システム研究所 准教授	松田 佑	
H29. 4.19	平成29年度科学技術分野文部科学大臣表彰 若手科学者賞	宇宙地球環境研究所准教授	三宅 美沙	
H29. 4.19	平成29年度科学技術分野文部科学大臣表彰 若手科学者賞	環境医学研究所准教授	山下 貴之	
H29. 4.20	第23回読売テクノフォーラム ゴールド・メダル賞	トランスフォーマティブ 生命分子研究所教授	伊丹健一郎	
H29. 4.20	日本機械学会賞（論文）	大学院工学研究科教授	長野 方星	松田雄太（平成28年度本学修了）と連名
H29. 4.20	日本機械学会賞（論文）	大学院工学研究科教授	松本 敏郎	
H29. 4.21	カセサート大学 The Shield of Honor Award	大学院生命農学研究科教授	土川 寛	
H29. 4.21	日本作物学会 第243回講演会 優秀発表賞	大学院生命農学研究科助教	大井 崇生	
H29. 4.23	第57回日本呼吸器学会 学術講演会 International Session Award	高等研究院特任助教	佐藤 和秀	
H29. 4.26	新技術開発財団 第49回市村学術賞 貢献賞	大学院理学研究科講師	中野 敏行	森島邦博（未来材料・システム研究所特任助教）と連名
H29. 5.11	第90回日本産業衛生学会 優秀演題賞	大学院医学系研究科講師	矢嶋伊知朗	加藤昌志（大学院医学系研究科教授）、 大神信孝（大学院医学系研究科講師）、 飯田真智子（大学院医学系研究科特任助教）、 他1名と連名
H29. 5.12	日本小児外科学会 平成28年度年間優秀論文賞	医学部附属病院病院講師	住田 互	大島一夫（医学部附属病院医員）、 他4名と連名

受賞者一覧

受賞日	受賞名	受賞者の所属・職名	受賞者	備考
H29. 5.15	カナダ化学会賞	トランスフォーマティブ生命分子研究所客員教授	キャサリンクラッデン	
H29. 5.17	整形災害外科学研究助成財団 財団奨励賞	医学部附属病院医員	都島 幹人	
H29. 5.18	Outstanding Author Contribution 2017, Emerald Literati Network Awards	アジア共創教育研究機構教授	山田 肖子	
H29. 5.18	第9回日本ゴム協会 科学技術奨励賞	大学院工学研究科講師	野呂 篤史	
H29. 5.19	第12回電子情報通信学会 通信ソサイエティ論文賞 優秀論文賞	情報基盤センター教授	村瀬 勉	他3名と連名
H29. 5.19	2017年度日本計算工学会 論文奨励賞	情報基盤センター准教授	荻野 正雄	
H29. 5.19	平成28年度ターボ機械協会賞 論文賞	大学院工学研究科教授	井上 剛志	
H29. 5.22	地球電磁気・地球惑星圏学会 田中館賞	宇宙地球環境研究所准教授	野澤 悟徳	
H29. 5.22	地球電磁気・地球惑星圏学会 田中館賞	宇宙地球環境研究所准教授	三好 由純	
H29. 5.23	化学とマイクロ・ナノシステム学会 第35回研究会 優秀研究賞	大学院工学研究科准教授	丸山 央峰	秋田祐甫 (大学院工学研究科 D1)、益田泰輔 (大学院工学研究科特任准教授)、小俣誠二 (大学院工学研究科特任助教)、他1名と連名
H29. 5.23	低温工学・超電導学会 平成29年度優良発表賞	大学院工学研究科助教	土屋 雄司	
H29. 5.27	日本材料学会 平成28年度支部功労賞	大学院生命農学研究科教授	佐々木康壽	
H29. 5.28	日本光合成学会 第8回年会 ポスター賞	大学院生命農学研究科助教	大井 崇生	
H29. 5.30	高分子学会 高分子研究奨励賞	大学院工学研究科助教	田浦 大輔	
H29. 5.31	第70回中日文化賞	トランスフォーマティブ生命分子研究所教授	伊丹健一郎	
H29. 6. 1	Best Paper Award in Service Robotics, IEEE Robotics and Automation Society	大学院工学研究科教授	長谷川泰久	
H29. 6. 1	Best Paper Award in Service Robotics, IEEE Robotics and Automation Society	大学院工学研究科特任助教	竹内 大	
H29. 6. 1	第33回強誘電体応用会議 優秀発表賞	大学院工学研究科准教授	山田 智明	
H29. 6. 1	日本熱処理技術協会 技術賞 (粉生賞)	大学院工学研究科教授	足立 吉隆	
H29. 6. 2	第71回日本セラミックス協会賞 学術賞	大学院工学研究科教授	松永 克志	
H29. 6.12	2017 Tomas Hirschfeld Award	大学院生命農学研究科教授	土川 寛	

学生

受賞日	受賞名	受賞者の所属・学年	受賞者	備考
H28. 9. 5	電気学会 優秀論文発表賞	大学院工学研究科 D3	三浦 峻	吉田 隆 (大学院工学研究科教授) と連名
H28.10.28	名古屋大学大学院工学研究科応用化学分野関連講座同窓会 応化会 博士学術賞	大学院工学研究科 D3	浅井 裕介	
H28.10.28	2016年度日本木材学会 中部支部大会 優秀発表賞	大学院生命農学研究科 M2	中村祐太郎	山崎真理子 (大学院生命農学研究科准教授)、佐々木康壽 (大学院生命農学研究科教授) と連名
H28.11.17	2016年度日本建築学会大会 (九州) 学術講演会 材料施工部門 若手優秀発表賞	大学院環境学研究科 M2	小川 浩太	丸山一平 (大学院環境学研究科教授) と連名
H28.11.17	2016年度日本建築学会大会 (九州) 学術講演会 材料施工部門 若手優秀発表賞	大学院環境学研究科 M2	栗原 諒	丸山一平 (大学院環境学研究科教授) と連名
H28.12. 5	高分子学会東海支部 東海高分子優秀学生発表賞	大学院工学研究科 M2	高桑 麻衣	
H28.12. 5	高分子学会東海支部 東海高分子優秀学生発表賞	大学院工学研究科 M2	山田恭太郎	
H28.12.15	第6回CSJ化学フェスタ2016 優秀ポスター発表賞	大学院工学研究科 M2	森 貴裕	
H28.12.16	土木学会 第6回FRP複合構造・橋梁に関するシンポジウム 優秀講演者	大学院工学研究科 M2	茗荷 将浩	
H28.12.18	第17回計測自動制御学会 システムインテグレーション部門講演会 SI2016優秀講演賞	大学院工学研究科 M2	佐藤雄一郎	コラン サイト ハシソト エンリケ (大学院工学研究科 M1)、中西 淳 (大学院工学研究科特任准教授)、長谷川泰久 (大学院工学研究科教授) と連名
H28.12.21	映像情報メディア学会 学生優秀発表賞	大学院工学研究科 M1	大岡 知樹	
H29. 1. 7	応用物理学会 東海支部学術講演会 発表奨励賞	大学院工学研究科 M2	中村 伊吹	

受賞者一覧

受賞日	受賞名	受賞者の所属・学年	受賞者	備考
H29. 1.20	Student Paper Award, IEEE Nagoya Section	大学院工学研究科 M2	鈴木 貴博	
H29. 3. 2	電子情報通信学会 第2回情報ネットワーク若手研究奨励賞	大学院情報科学研究科 M1	大宮 陸	
H29. 3. 4	日本オペレーションズ・リサーチ学会中部支部 第44回研究発表会 学生論文賞最優秀賞	大学院情報科学研究科 M2	松下 健	胡 艶楠 (大学院情報科学研究科助教)、 柳浦睦憲 (大学院情報科学研究科教授)、 他2名と連名
H29. 3. 6	日本建築学会 東海支部学生学術講演賞	大学院環境学研究科 M2	川崎 有貴	
H29. 3. 6	日本知能情報ファジイ学会 第4回人間共生システムデザインコンテスト 審査員特別賞	工学部4年	谷嵯 悠平	ジメネス フェリックス (大学院工学研究科助教)、 吉川大弘 (大学院工学研究科准教授)、 古橋 武 (大学院工学研究科教授)と連名
H29. 3. 7	第9回データ工学と情報マネジメントに関する フォーラム (DEIM 2017) 学生プレゼンテーション賞	大学院情報科学研究科 D2	杉浦 健人	
H29. 3. 7	自動車技術会 大学院研究奨励賞	大学院工学研究科 M2	内田 祐一	
H29. 3. 7	自動車技術会 大学院研究奨励賞	大学院工学研究科 M2	山下 大樹	
H29. 3. 8	Nakamura-Usui Prize 2017	大学院理学研究科 D3	テンディ ポアネルゲス	
H29. 3. 8	Nakamura-Usui Prize 2017	理学部4年	レティティア サラ	
H29. 3.13	精密工学会 第24回学生会員卒業研究発表 講演会 優秀講演賞	工学部4年	森田 知樹	
H29. 3.14	精密工学会 沼田記念論文賞	大学院工学研究科 D3	齊藤 寛史	鄭 弘鎮 (大学院工学研究科 M2)、 社本英二 (大学院工学研究科教授)と連名
H29. 3.15	自動車用内燃機関技術研究組合 2016年度 AICE Award 優秀研究発表賞	大学院工学研究科 M2	山下 大樹	
H29. 3.16	日本音響学会 学生優秀発表賞	大学院情報科学研究科 M2	関 翔悟	武田一哉 (未来社会創造機構教授)、 戸田智基 (情報基盤センター 教授)と 連名
H29. 3.16	情報処理学会 第79回全国大会 学生奨励賞	大学院工学研究科 M2	飯田 啓量	櫻田 健 (大学院工学研究科助教)、 河口信夫 (未来社会創造機構教授)と連名
H29. 3.16	情報処理学会 第79回全国大会 学生奨励賞	大学院情報科学研究科 M2	山田 真生	
H29. 3.16	情報処理学会 第79回全国大会 学生奨励賞	大学院工学研究科 M1	宅和 晃志	
H29. 3.16	情報処理学会 第79回全国大会 学生奨励賞	大学院情報科学研究科 M1	野村 太輝	
H29. 3.16	電気学会 優秀論文発表賞	大学院工学研究科 M2	石田 一樹	
H29. 3.19	第21回日本体力医学会 東海地方会学術集会 奨励賞	大学院医学系研究科 D3	藤原 光宏	鈴木重行 (大学院医学系研究科教授)、 井上貴行 (医学部附属病院医療技術部 リハビリ部門理学療法士)と連名
H29. 3.21	空気調和・衛生工学会中部支部 学術研究発表会 優秀ポスター賞	大学院環境学研究科 M1	清水 一磨	齋藤輝幸 (大学院環境学研究科准教授)、 田中英紀 (施設・環境計画推進室特任教授) と連名
H29. 3.24	電子情報通信学会 学術奨励賞	大学院医学系研究科 M2	五十嵐健悟	
H29. 3.24	平成28年度土木学会 中部支部 研究発表賞	大学院環境学研究科 M1	野中 一鴻	
H29. 3.25	Excellent Student Award, IEEE Nagoya Section	大学院工学研究科 M2	鈴木 貴博	
H29. 3.25	平成28年度日本化学会 東海支部 支部長賞	大学院工学研究科 M2	青木 幸太	
H29. 3.27	Excellent Student Award, IEEE	大学院工学研究科 M2	野村 浩司	
H29. 3.27	計測自動制御学会 中部支部 第48期支部賞 学業優秀賞	工学部4年	佐々木康雄	
H29. 3.27	日本化学会 東海支部長賞	大学院理学研究科 M2	戸田 雄佑	
H29. 3.27	日本化学会 東海支部長賞	大学院工学研究科 M2	福田 雅大	
H29. 3.27	日本化学会 東海支部長賞	大学院理学研究科 M2	堀田 貴都	
H29. 3.27	日本化学会 東海支部長賞	理学部4年	奥出 諒	
H29. 3.27	日本化学会 東海支部長賞	理学部4年	小林 和幹	
H29. 3.27	日本化学会 東海支部長賞	理学部4年	小林 健祐	
H29. 3.27	日本化学会 東海支部長賞	工学部4年	田中 良樹	
H29. 3.27	日本化学会 東海支部長賞	工学部4年	西村 和揮	
H29. 3.27	日本薬学会 第137年会 学生優秀発表者賞	大学院創薬科学研究科 D3	藤田 将史	
H29. 3.27	平成28年度名古屋大学院理学研究科顕彰	大学院理学研究科 M2	矢野 裕太	
H29. 3.27	平成28年度名古屋大学総長顕彰	理学部4年	戸谷 充寿	

受賞者一覧

受賞日	受賞名	受賞者の所属・学年	受賞者	備考
H29. 3.28	日本原子力学会 フェロー賞	工学部 4年	山内 崇弘	
H29. 3.29	第122回日本解剖学会総会・全国学術集会 学生セッション 優秀発表賞	医学部 4年	上川 裕輝	
H29. 3.30	日本化学会 第97春季年会実行委員会 CSJ Student Presentation Award 2017	大学院情報科学研究科 D2	松本健太郎	高柳昌芳 (大学院情報科学研究科特任助教)、 古賀伸明 (大学院情報科学研究科教授)、 長岡正隆 (大学院情報科学研究科教授)、 他1名と連名
H29. 3.30	日本化学会 第97春季年会 学生講演賞	大学院創薬科学研究科 D3	道木 和也	
H29. 3.30	日本化学会 第97春季年会 学生講演賞	大学院理学研究科 D3	鳴戸 真之	
H29. 3.30	日本化学会 第97春季年会 学生講演賞	大学院工学研究科 D3	山下 賢二	
H29. 3.30	日本化学会 第97春季年会 学生講演賞	大学院理学研究科 D2	王 呂鳴	
H29. 3.30	日本化学会 第97春季年会 学生講演賞	大学院理学研究科 D2	鈴木 真	
H29. 3.30	日本化学会 第97春季年会 学生講演賞	大学院理学研究科 D2	吉村 柁彦	
H29. 3.30	日本化学会 第97春季年会 学生講演賞	大学院工学研究科 D1	石立 涼馬	
H29. 3.30	日本化学会 第97春季年会 学生講演賞	大学院工学研究科 D1	阪本 竜浩	
H29. 4. 1	第64回応用物理学会 春季学術講演会 Poster Award	大学院工学研究科 M2	鈴木 崇文	他6名と連名
H29. 4. 1	IEEE 名古屋支部 2017年国際会議研究発表賞	大学院工学研究科 D1	小倉 貴志	
H29. 4. 1	IEEE 名古屋支部 2017年国際会議研究発表賞	平成28年度本学修了	伊東 優作	
H29. 4.15	日本オペレーションズ・リサーチ学会研究部会 「評価のOR」 学生奨励賞	大学院情報学研究科 M1	舟橋 紀絵	胡 艶楠 (大学院情報学研究科助教)、 柳浦睦憲 (大学院情報学研究科教授)、 他3名と連名
H29. 4.20	日本機械学会 奨励賞	大学院工学研究科 D2	杉浦 広峻	
H29. 4.21	The Best Student Oral Paper Award, ALPS '17 The 6th Advanced Lasers and Photon Sources	大学院工学研究科 D3	村手 宏輔	
H29. 4.28	IEEE AP-S Nagoya Chapter, MTT-S Nagoya Chapter, Midland Student Express 2017 優秀発表賞	大学院工学研究科 M1	池田 健矢	
H29. 4.28	日本病理学会 100周年記念 病理学研究新人賞	大学院医学系研究科 D4	大原 悠紀	
H29. 4.29	Excellent Presentation Award, JSNP	大学院医学系研究科 D4	祖父江 顕	
H29. 4.30	第26回日本行動神経内分泌研究会 最優秀発表賞	大学院医学系研究科 D1	伊澤俊太郎	
H29. 5.11	日本機械学会 ロボティクス・メカトロニクス 部門 ベストプレゼンテーション表彰	大学院工学研究科 D2	杉浦 広峻	
H29. 5.13	2017年日語教育と日本語研究国際研討会 研究生学術論壇 日本語教育組三等奨	大学院人文学研究科 D1	李 夢迪	
H29. 5.15	国立大学臨床検査学系博士後期課程 最優秀賞	大学院医学系研究科 D3	高木 夕希	
H29. 5.17	Silver Medal Award, ICBP2017 (The 6th International Conference on Bio-based Polymers)	大学院工学研究科 M2	西田 竹徳	
H29. 5.17	Bronze Medal Award, ICBP2017 (The 6th International Conference on Bio-based Polymers)	大学院工学研究科 D2	竹嶋 久晶	
H29. 5.18	日本ゴム協会 2017年年次大会 ポスター優秀発表賞	大学院工学研究科 M2	梶田 貴都	
H29. 5.18	日本レオロジー学会 Best Presentation 賞	大学院工学研究科 M2	磯田 卓万	増淵雄一 (大学院工学研究科教授)、 山本哲也 (大学院工学研究科助教) と連名
H29. 5.19	EMSEA Takagi Memorial Student Award, ISRS 2017 (International Symposium on Remote Sensing 2017)	大学院環境学研究科 M1	西尾 文吾	
H29. 5.19	日本質量分析学会 第65回質量分析総合 討論会 ベストプレゼンテーション賞 ポスター発表部門・優秀賞	大学院医学系研究科 D3	大矢 倫子	
H29. 5.19	日本リモートセンシング学会 優秀論文発表賞	大学院環境学研究科 M2	倉田 夏菜	山口 靖 (大学院環境学研究科教授) と 連名
H29. 5.20	軽金属学会 第132回春期大会 優秀ポスター発表賞	大学院工学研究科 M1	森 祐輔	
H29. 5.20	第36回表面科学学術講演会 講演奨励賞	平成28年度本学修了	杉岡 大輔	
H29. 5.21	日本火災学会 日本火災学会学生奨励賞	大学院環境学研究科 M2	佐藤 太勇	

受賞者一覧

受賞日	受賞名	受賞者の所属・学年	受賞者	備考
H29. 5.23	化学とマイクロ・ナノシステム学会 第35回研究会 優秀発表賞	大学院工学研究科 D2	中原 康	
H29. 5.25	平成28年度火薬学会 奨励賞	大学院工学研究科 D3	丹波 高裕	
H29. 5.25	日本伝熱学会 第54回日本伝熱シンポジウム 優秀プレゼンテーション賞	大学院工学研究科 D2	小田切公秀	長野方星（大学院工学研究科教授）と連名
H29. 5.28	第8回日本光合成学会 年会ポスター賞	大学院理学研究科 M2	大平 彩花	
H29. 5.28	第8回日本光合成学会 年会ポスター賞	大学院理学研究科 M1	伊藤 綾花	杉田千恵子（遺伝子実験施設技術補佐員）、 杉田 護（遺伝子実験施設教授）、 他2名と連名
H29. 5.28	日本珪藻学会 第38回大会 最優秀発表賞	大学院環境学研究科 M1	服部 圭治	他3名と連名
H29. 5.30	第25回ポリマー材料フォーラム 優秀発表賞	大学院工学研究科 D2	石立 涼馬	
H29. 5.31	Young Presentation Award, The 8th International Conference on Electroceramics (ICE2017)	大学院工学研究科 D1	近藤 真矢	

*受賞者の所属・職名又は学年は、受賞当時

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成29年5月16日～6月15日]

記事	月日	新聞等名
1 東山哲也トランスフォーマティブ生命分子研究所教授らは、1マイクロメートルの隙間を通過する植物細胞をマイクロ流体デバイスで観察することに成功	5.16 (火)	日刊工業
2 本学が愛知県や名古屋市とともに設立する研究事業拠点「あいち・なごや強靱化共創センター」が6月に業務を始める	5.16 (火)	中日 (朝刊)
3 竹岡敬和工学研究科准教授らは角度依存性のない鮮やか構造色を示す生き物に非退色性の構造発顔料、光学デバイスを構築	5.18 (木)	日刊工業
4 科学の森:「夢の炭素分子」に期待 カーボンナノベルトの合成成功 瀬川泰和理学研究科特任准教授は「現在、ナノベルトは1種類しかないが、将来的には直径や構造など、産業界で必要なものをオーダーメイドで合成できることを目指す」と語る	5.18 (木)	毎日 (朝刊)
5 2分の1成人式 学校に浸透 親へ感謝の手紙■将来の夢発表 内田 良教育発達科学研究科准教授は2分の1成人式について「将来の夢を考えたり、20歳の自分に手紙を書いたり、自分の将来に向けた、子どもにとって役立つイベントにしてほしい」と語る	5.18 (木)	朝日 (朝刊)
6 トラフを歩く 大地震の痕跡:断層真上に新幹線の橋 富士川河口の「地震山」山岡耕春環境学研究科教授は「南海トラフ地震は100年から150年に1回起きるが、駿河湾まで震源が延びるのは200年から300年に1回」と語る	5.18 (木)	中日 (夕刊)
7 医療講演会「B型肝炎の基礎知識ー病気と治療の内容ー」開催:20日 石上雅敏医学部附属病院講師が講演	5.19 (金)	毎日 (朝刊)
8 失敗から学ぶ:ヘルスケアシステムズ「郵送検査キット」名古屋大学発ベンチャー企業 机上の理論では結果が出ず	5.19 (金)	中部経済
9 「南海トラフ地震対策中部圏戦略会議」は名古屋市内で会議を開き、本年度中に広域的な「タイムライン (事前防災行動計画)」を策定することを決め、委員を務める福和伸夫減災連携研究センター長は「ものづくり産業の維持は、一企業、一自治体だけではできない。何をすべきかあらかじめ決め、共有しておくことが大切だ」と語る	5.19 (金)	中日 (朝刊)
10 プロ棋士で四段の藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生がプロデビュー以来公式戦18連勝し、記録を更新した	5.19 (金)	日経 (朝刊) 他4社
11 佐藤良勝トランスフォーマティブ生命分子研究所特任講師らは、幹細胞化する細胞がとなりの細胞の幹細胞化を抑制することをコケ植物で発見	5.19 (金) 5.29 (月)	日経産業 日刊工業
12 公文書は誰のもの? 記録への意識が欠如 ジャーナリスト春名幹男本学元客員教授	5.20 (土)	中日 (朝刊)
13 先端人:難治がん 新たな治療法 腫瘍病理学 榎本 篤医学系研究科准教授	5.21 (日)	中日 (朝刊)
14 読売テクノ・フォーラム「ゴールドメダル賞」受賞記念講演会開催:20日 受賞者の伊丹健一郎トランスフォーマティブ生命分子研究所教授が「カーボンナノベルト」について報告	5.21 (日)	読売
15 核心:藤井四段 トップ棋士から見ると 強さ 底知れない 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生	5.22 (月)	中日 (朝刊)
16 NEWS 2 WEEKS 将棋の中学生棋士、藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が公式戦18連勝。連勝記録史上7位タイに	5.22 (月)	朝日 (朝刊)
17 毎日文化センター講座:「教育勅語を考える」中嶋哲彦教育発達科学研究科教授、「どうするどうなる日本国憲法」森 英樹本学名誉教授	5.23 (火)	毎日 (朝刊)
18 折々のことば:「つまり、知らないことがあること自体をしらなかつたわけだ。」書籍「ちくま」4月号から エッセー「とびだせ教養」戸田山和久情報学研究科教授著	5.24 (水)	朝日 (朝刊)
19 いちからわかる!:将棋で中学生棋士が大活躍してるの? 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生	5.24 (水)	朝日 (朝刊)
20 英国・マンチェスターのコンサート会場で自爆テロが起き、本学は英国滞在中の学生2名の無事を確認	5.24 (水)	読売
21 日系ブラジル人三世の照屋レナン・エイジ氏本学卒業生が司法試験に合格「日系の壁」越え 弁護士に	5.24 (水) 5.25 (木)	中日 (夕刊) 中日 (朝刊)

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成29年5月16日～6月15日]

記事	月日	新聞等名
22 本学と株式会社デンソーは、教育と人事教育で連携協定を締結したと発表	5.25 (木)	日経(朝刊) 他3社
23 松尾総長は、東海地区国立大学法人の大規模災害対応に関する協定を締結することを明らかにした	5.25 (木)	読売
24 廃炉ビジネス胎動ー浜岡原発停止6年ー(下): ミュー粒子 溶融燃料 透視目指す 中村光廣未来材料・システム研究所教授	5.25 (木)	中日(朝刊)
25 デビュー以来公式戦18連勝中の藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が、竜王戦6組ランキング戦決勝で対局	5.25 (木)	読売
26 被災後の廃棄物処理の仕方を学ぶ市民フォーラム「減災連携活動に学ぶー南海トラフ大地震への備えー」開催: 30日 福和伸夫減災連携研究センター教授が講演	5.25 (木)	中日(朝刊)
27 一般社団法人未来マトリクスがイノベーションに関するサロンを開催し、宇治原 徹未来材料・システム研究所教授が実績を紹介	5.26 (金)	中部経済
28 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生がプロデビュー以来公式戦19連勝し、記録を更新した	5.26 (金)	毎日(朝刊) 他4社
29 あの人に迫る:「岡崎フラグメント」発見 岡崎恒子本学特別教授 両立が大変でも研究諦めないで	5.26 (金)	中日(夕刊)
30 国際開発研究科長に伊東早苗同研究科教授を選出	5.27 (土)	中日(朝刊)
31 経済学部主催国際シンポジウム「世界の政治・経済の現状と展望」開催: 26日	5.27 (土)	中日(朝刊)
32 のよりサロン 最終回:「未来をつくる力」若者を寛容に見守って 野依良治本学特別教授が本学学生と議論を交わす	5.28 (日)	中日(朝刊)
33 新聞とわたし: 同世代の藤井四段、すごい 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生の活躍について	5.28 (日)	中日(朝刊)
34 NEWS 2 WEEKS: 25日 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生がプロデビュー以来公式戦19連勝し、記録を更新	5.29 (月)	朝日(朝刊)
35 NEWSピックアップ:「真実の追求」こそ新聞の役割 丹羽宇一朗本学名誉博士に聞く	5.29 (月)	中部経済
36 主張: 自動運転、産学官で前進 株式会社マップフォー社長桶川雄樹さん本学博士後期課程生	5.29 (月)	日刊工業
37 秋山真志医学系研究科教授らは、皮膚の表皮融解性母斑を持つ患者の次の世代に、全身の表皮融解性魚鱗癬を発症するリスクを予測する手法を確立	5.30 (火)	日刊工業
38 愛知県教育委員会は本学などと連携し、理数工学系人材の育成を目指す「あいちSTEMハイスクール」に、瑞陵、大府東、半田農業、岡崎工業、豊橋工業の県立高校5校を選び、発表した	5.30 (火)	朝日(朝刊) 中日(朝刊)
39 小児がんの治療・研究を充実させることを目指す「一般社団法人名古屋小児がん基金」が設立1周年を迎え、医学部で記念イベントが開かれる	5.30 (火)	中日(朝刊)
40 中学生タイトルなるか 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生 序盤の粗さ克服 止まらぬ快進撃	5.30 (火)	中日(朝刊)
41 塩村 耕人文学研究科教授は人気を呼んでいる古書専門の「西尾市岩瀬文庫」について「ここにしかない本が多く、まさに宝庫」と語る	5.30 (火)	毎日(夕刊)
42 「藤井旋風」で将棋教室活況 14歳四段、デビュー19連勝 小中学生の目標に 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生	5.30 (火)	日経(夕刊)
43 斎藤 進理学研究科教授らは、安定アミドを効率よくアミンやアルコールに変換する触媒を開発	5.30 (火) 6. 9 (金)	日刊工業 科学新聞
44 東海支部の歴史意匠委員長を務める西澤泰彦環境学研究科教授は、愛知県立農業大学の旧講堂「追進館」の保存を求める要望書を大村知事あてに提出し「部分的に補修して外観だけでも眺められるようにするなど、費用を抑える方法もある」と語る	5.31 (水)	中日(朝刊)
45 愛知県防災会議開催: 30日 山岡耕春環境学研究科教授は「南海トラフ巨大地震予測に関わる問題」と題し講演	5.31 (水)	中日(朝刊)
46 日本経済団体連合会会長榊原定征氏本学卒業生が残り1年の任期に向けて「最大の課題は経済再生とデフレ脱却で、政治と経済は車の車輪だ」と語る	5.31 (水)	中日(朝刊) 他2社
47 中部発: 掛川の元教師ら自費出版 大阪大学名誉教授故木下達彦本学元助教授の業績をまとめた本「木下達彦先生の生涯」を教えるの神奈川大学名誉教授森 和亮氏本学卒業生らが自費出版	5.31 (水)	中日(夕刊)
48 柘植千佳さん農学部4年生が農家や食品加工業者と消費者を結び付けるネットサイト「Kodawarin」の運営を始めた	5.31 (水)	朝日(夕刊)
49 第70回中日文化賞贈呈式: 31日 伊丹健一郎トランスフォーマティブ生命分子研究所教授	5.31 (水) 6. 1 (木)	中日(夕刊) 中日(朝刊)
50 川合伸幸情報学研究科准教授、中田龍三郎同研究員らのグループは、鏡の前で食べると、一人の食事もおいしく感じるとの調査結果を発表	5.31 (水) 6. 6 (火) 6. 9 (金) 6.13 (火)	朝日(夕刊) 毎日(夕刊) 科学新聞 中日(朝刊)
51 西山朋子理学研究科准教授らは、染色体機能融合タンパク質を発見	6. 1 (木)	中日(朝刊)
52 DOCTORが薦める名医: 木村 宏医学系研究科教授 がんウイルス解明に力 画期的な診断法を確立 安城更生病院副院長度会正人氏の紹介	6. 1 (木)	中部経済
53 科学技術振興機構は、2017年夏から海外研究者との共同研究を支援する取り組みを始め、同理事長の濱口道成前総長は「米国の科学技術予算全体が削減されている。新規のプロジェクトができなくなり、米国では職に就けなくなる研究者が出てくるかもしれない」と語る	6. 1 (木)	日刊工業
54 ぶかつ道: 瑞陵高校・将棋部 藤井四段を励みに、名門復活期す 同校2年生が藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生と同じ教室に通っていた	6. 1 (木)	中日(朝刊)
55 最年少棋士に棋界も興奮 きょう節目の20連勝懸け一戦 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生	6. 1 (木) 6. 2 (金)	毎日(夕刊) 中部経済 読売

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成29年5月16日～6月15日]

記事	月日	新聞等名
56 本学が愛知県や名古屋市とともに設立する研究事業拠点「あいち・なごや強靱化共創センター」が東山キャンパスに開所しセンター長を務める福和伸夫減災連携研究センター教授は「中部全体で防災力を高める仕掛けとなりたい」と語る	6. 2 (金)	中日 (朝刊)
57 本学や大阪大学、情報通信研究機構、株式会社東芝が開発を進める気象用の高精度レーダーが10月にも埼玉大学に設置される	6. 2 (金)	日刊工業
58 Culture: 中日文化賞贈呈式 受賞者のメッセージ 伊丹健一郎トランスフォーマティブ生命分子研究所教授「中日文化賞が優れた研究や研究者を生み出すプロセスにおいて、最も優れた触媒であると、証明していきたい」	6. 2 (金)	中日 (朝刊)
59 東海キャンパス: 教えて! 留学体験 取材を終えて広瀬美咲さん本学学生は「費用を計画的に工面すべきだという学生の助言が印象的だった」と語る	6. 2 (金)	毎日 (朝刊)
60 就職戦線 いざ本番 今年も「売り手市場」■選考前倒し加速 本学でインターンシップ説明会があり、川合恵介さん本学3年生は「企業のことがよりよく分かると思うので、インターンには参加したい」と語る	6. 2 (金)	朝日 (朝刊)
61 米国 パリ協定離脱表明 今こそ地球守ろう 竹内恒夫環境学研究所教授は「トランプ氏の表明は非常に残念だが、失望する必要はない」と語り、高村ゆかり環境学研究所教授は「今後、主導国が不在となれば、技術面にだけた日本が存在感を示すチャンスとも言える」と語る	6. 3 (土)	中日 (朝刊)
62 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生がプロデビュー以来公式戦20連勝し、記録を更新した	6. 3 (土)	朝日 (朝刊) 他3社
63 経済サブリ: 縮小する酪農 福島大学教授生源寺真一元本学教授	6. 3 (土)	中部経済
64 時のおもりの国の根幹売り渡すのか 水道法改定と種子法の廃止 池内 了本学名誉教授	6. 3 (土)	中日 (朝刊)
65 病院の実力: 腰痛 医学部附属病院の治療実績が取り上げられる	6. 4 (日)	読売
66 備える3.11から 災前の策: 第140回 森の防潮堤 後世に津波伝える役割も 福和伸夫減災連携研究センター教授	6. 5 (月)	中日 (朝刊)
67 教育の窓: プールの事故 防げるか 内田 良教育発達科学研究科准教授は「質の高い教員のもとで正しく飛び込めば事故が起きないが、そうした教員や生徒が全員ではない以上、事故は起きてしまう」と語る	6. 5 (月)	毎日 (朝刊)
68 先駆け愛知 LED 信号 伸び悩み 赤崎 勇本学特別教授と天野 浩未来材料・システム研究所教授が発明した青色LEDの技術を使った信号機が1994年に名古屋市に世界で初めて設置された	6. 5 (月)	中日 (朝刊)
69 本学と株式会社ティアフォー、アイサンテクノロジー株式会社、アイシン・エイ・ダブリュ株式会社など5社は愛知県で無人自動車を公道で走らせる実験に取り組む	6. 5 (月) 6. 6 (火)	中日 (夕刊) 日経 (朝刊) 他3社
70 科学する人: “夢の分子” を初合成 ベルト構造の炭素 有機合成化学者の伊丹健一郎トランスフォーマティブ生命分子研究所教授 (1)	6. 6 (火)	中部経済
71 田中康平博物館特別研究員は1965年に採取された化石が、恐竜の卵と判明したことについて「当時は世界的にも恐竜卵化石の研究が始まったばかりで、既に国内でも見つかったのは大きな驚きだ」と語る	6. 6 (火)	読売
72 博物館野外観察園セミナーハウス サテライト展示「名大キャンパスの野鳥」開催: 4月3日～7月7日	6. 6 (火)	朝日 (夕刊)
73 日本経済新聞社と日経 HR が実施した大学イメージ調査で、本学はイメージ調査総合ランキング、採用を増やしたい大学の調査でどちらも8位だった	6. 7 (水)	日経 (朝刊)
74 老いとともに: 抗がん剤 選択のポイント 新指針のワーキンググループ長を務める安藤雄一医学部附属病院教授は「少し弱った人はこうした治療がよいとかを見極め、より適切な治療に導くことができるものにしたい」と語る	6. 7 (水)	朝日 (朝刊)
75 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が「大志」と揮毫した扇子を日本将棋連盟が発売すると発表	6. 7 (水)	毎日 (朝刊) 中日 (朝刊)
76 親ありて: 没頭している時は止めず 将棋四段 藤井聡太さんの母 裕子さん④ 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生	6. 7 (水)	毎日 (朝刊)
77 起業家の卵: 「プロモーター」大重健太郎氏本学卒業生	6. 7 (水)	中部経済
78 伊丹健一郎トランスフォーマティブ生命分子研究所教授、坂本裕俊理学研究科特任助教、尾崎仁亮同研究員らは、電気刺激で電子伝導性と白色発光を同時に示す物質を発見	6. 8 (木)	中日 (朝刊)
79 科学する人: 「新燃料を開発しよう」落ちこぼれ一転、研究没頭 有機合成化学者の伊丹健一郎トランスフォーマティブ生命分子研究所教授 (2)	6. 8 (木)	中部経済
80 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生がプロデビュー以来公式戦23連勝し、記録を更新した	6. 8 (木)	日経 (朝刊) 他4社
81 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生に瀬戸わくわく 通った教室大人気 瀬戸市広報大使を打診	6. 8 (木)	中日 (朝刊)
82 親ありて: そばで話を耳を傾けて 将棋四段 藤井聡太さんの母 裕子さん⑤ 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生	6. 8 (木)	毎日 (朝刊)
83 日本経済団体連合会会長榊原定征氏本学卒業生は2025日本万国博覧会について「誘致レースを勝ち抜いていく」と語る	6. 8 (木)	日刊工業
84 第11回朝日杯将棋オープン戦 プロアマ一斉対局: 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生対学生名人東京大学1年生藤岡隼太さん	6. 8 (木)	朝日 (夕刊)
85 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が「大志」と揮毫した扇子が発売され、関西将棋会館では30分余りで売り切れた	6. 8 (木)	朝日 (夕刊)
86 科学する人: 役立つ分子作り目指す 未知の分野に挑戦 有機合成化学者の伊丹健一郎トランスフォーマティブ生命分子研究所教授 (3)	6. 9 (金)	中部経済
87 いま防災は 巨大地震に備える③: 地盤情報も加味 被害予想 福和伸夫減災連携研究センター教授は自宅を構える際に気をつける点について「まずはリスクが低い地域を選ぶことが重要。安全性と利便性は両立しないと理解して考えるべきだ」と語る	6. 9 (金)	毎日 (朝刊)

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成29年5月16日～6月15日]

記事	月日	新聞等名
88 理解進まぬ組み換え表示 遺伝子組み換え食品の表示義務の拡大について第1回検討会が行われ、委員の1人である立川雅司環境学研究所教授は「消費者に選択の機会を提供するために始まった表示制度だが、結果的にその機会は与えられなかった」と語る	6.9 (金)	毎日 (朝刊)
89 佐々木康寿生命農学研究所教授は碧海信用金庫の御園支店の木組みスクリーンを施した隈 研吾氏のデザインについて「人目につく都心のビルに木材を利用する工夫が素晴らしい」と語る	6.9 (金)	読売
90 中部の環境を考える会 35年 問い続け これからも 竹内恒夫環境学研究所教授がトランプ政権の誕生で、先行きが見通せなくなっているパリ協定の現状などを報告	6.9 (金)	中日 (朝刊)
91 棋界 AI に完敗の衝撃 深層学習3年で人類抜き去る 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生はAIで課題の局面を研究	6.9 (金)	朝日 (朝刊)
92 社説：14歳藤井四段の快進撃 新星の誕生を喜びたい 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生	6.9 (金)	毎日 (朝刊)
93 愛知学院大学モーニング・セミナー開催：13日 榎田洋一工学研究所教授が講演	6.10 (土)	中日 (朝刊)
94 池内 了本学名誉教授の日本学術会議の安全保障と学術に関する声明に対する寄稿について、同会議会長の豊橋技術科学大学長大西 隆氏が見解を述べる	6.10 (土)	中日 (朝刊)
95 医学系研究科は研究棟に芸術大学生の作品を展示する取り組みを開始	6.10 (土)	中日 (朝刊)
96 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が公式戦24連勝し歴代2位タイの記録を達成	6.10 (土)	中日 (朝刊) 他2社
97 沢田昭二本学名誉教授が呼びかけ人の一人を務める愛知県原水爆被災者の会は「ヒバクシャ国際署名を進める愛知県民の会」を設立。これについて沢田名誉教授は「人類の歴史を大きく変える署名運動になれば」と語る	6.10 (土) 6.13 (火)	読売 毎日 (朝刊)
98 本学などの研究チームは高速で瞬くオーロラの撮影に成功	6.11 (日)	日経 (朝刊)
99 ハラスメント相談センター・男女共同参画室「働く女性のハラスメント防止 妊活ハラスメントからマタハラ・育ハラまで」開催：10日 東村副理事・生命農学研究所教授がトークセッションに参加	6.11 (日)	朝日 (朝刊)
100 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が公式戦25連勝し歴代単独2位の記録を達成	6.11 (日)	朝日 (朝刊) 他4社
101 Sストーリー 信念が生む「型破り」加藤一二三九段 棋士人生は続く 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生がデビュー戦で対局したことが紹介される	6.11 (日)	毎日 (朝刊)
102 素粒子：藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生、14歳にして達人の域を垣間見る	6.12 (月)	朝日 (夕刊)
103 本学は、米国インテルのベンチャー投資部門などで企業育成に携わった民間人材を特任の教員に招き、教育や学生らの新事業立ち上げを後押しする	6.13 (火)	日経 (朝刊)
104 本学は英国クアクアレリ・シモンズによる「2018年世界大会ランキング」で161位だった	6.13 (火)	日刊工業
105 デビュー25連勝 藤井四段 地元・瀬戸 熱気ますます 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生	6.13 (火)	日経 (夕刊)
106 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生のクリアファイルが日本将棋連盟から発売され、本日分が完売した	6.13 (火)	中日 (朝刊)
107 にじ：藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生	6.13 (火)	毎日 (朝刊)
108 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生から大村知事へ宿題 詰将棋の問題	6.13 (火)	中日 (朝刊)
109 第23回博物館特別展球状コンクリーションの謎 - 化石永久保存のメカニズム開催：3月14日～7月8日	6.13 (火)	朝日 (夕刊)
110 本学と理化学研究所が連携・協力の推進に関する基本協定を締結	6.14 (水)	日刊工業 他4社
111 NIE (教育に新聞を) 全国大会名古屋大会開催：8月3、4日 記念講演をする天野 浩未来材料・システム研究所教授は「若い世代が新聞を読むことで、好きなことや興味関心があることを見つけられたら」と語る	6.14 (水)	中日 (朝刊)
112 男女共同参画センター長に東村副理事・生命農学研究所教授を選出	6.14 (水)	中日 (朝刊)
113 JAPSAM PRP 幹細胞研究会発足シンポジウム開催：17日 ES 総合館で日比英晴医学系研究所教授が講演	6.14 (水)	中日 (朝刊)
114 藤井四段に首長熱視線 大村知事は藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生から自作自筆の「詰将棋」の問題を贈られたことを披露し、瀬戸市は同市が新設する「広報大使」の第1号委嘱を検討中で、河村名古屋市長は学校が名古屋にあるとして「名古屋の生んだ大天才、スーパースター」と持ち上げた	6.14 (水)	朝日 (朝刊)
115 第30回日本老年学会総会 開催記念特集 同総会会長国立長寿医療研究センター名誉総長大島伸一本学名誉教授	6.14 (水)	中日 (朝刊)
116 女性天皇、女系除外の必要ない 京都大学教授伊藤之雄氏元本学助教授	6.14 (水)	毎日 (朝刊)
117 「藤井四段は記録の先を見ている」将棋 連続記録「28」保持者神谷広志八段が語る藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生	6.14 (水)	中日 (夕刊)
118 藤井四段 別人の輝き 同級生ら静かに声援 原 順子教育学部附属高等学校副校長は「学業と両立できるように何ができるか探っている」と語り、担任の大羽 徹同中学校教諭は「にこやかで礼儀正しい印象は変わらない」と語る	6.14 (水)	毎日 (夕刊)
119 本学や静岡大学など東海地区の8つの国立大学は、大規模災害に対応に関する協定を結び、松尾総長は「大災害時には有効に機能するような形にしたい」と語る	6.14 (水) 6.15 (木)	日経 (夕刊) 他2社 中日 (朝刊) 他2社
120 公開実験講座「バイオサイエンス・バイオテクノロジーを体験する」開催：8月5日、6日 生物機能開発利用研究センターで行われる	6.15 (木)	中日 (朝刊)
121 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生が大村知事に贈った詰将棋の問題に、愛知県職員が代わって解答	6.15 (木)	中日 (朝刊)
122 藤井聡太さん教育学部附属中学校3年生がプロデビュー以来公式戦26連勝なるか	6.15 (木)	朝日 (夕刊)

イベントカレンダー

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

7月18日(火)～11月10日(金)

場 所：博物館野外観察園
セミナーハウス 2階

時 間：10:00～16:00

休 館 日：土・日・祝日

および8月12日～15日

(10月21日臨時開館)

入 場 料：無料

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

博物館野外観察園セミナーハウス サテライト展示 「野外観察園のボタニカルアート | 夏と秋の植物」



7月24日(月)

場 所：情報基盤センター 4階演習室

時 間：13:00～14:30

定 員：40名

対 象：一般

参 加 費：無料

[問い合わせ先]

情報推進部情報推進課 052-789-4352

平成29年度第3回情報連携統括本部公開講演会・研究会

講 演 者：相原玲二氏 (広島大学教授)

講演題目：「広島大学におけるパソコン必携化に至る経緯と現状」

内 容：情報技術の最新動向について

7月25日(火)～10月21日(土)

場 所：博物館 2階展示室

時 間：10:00～16:00

休 館 日：日・月曜日および8月12日～15日

入 場 料：無料

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

第35回博物館企画展「ムシの世界」

[関連特別講演会]

場 所：博物館 3階講義室

時 間：13:30～15:00

講演題目：「ホタルのおしりはなぜ光る・発光の謎」(7/29)

講 演 者：大場裕一氏 (中部大学准教授)

講演題目：「蝶の世界－奈良坂源一郎と田淵行男の業績」(8/10)

講 演 者：高橋 昭 (本学名誉教授)

参 加 費：無料



7月31日(月)

場 所：豊田講堂

時 間：18:00～

対 象：幼児以上、一般

参 加 費：無料

[問い合わせ先]

総務部広報渉外課 052-747-6558

Campus Concert

演奏曲目：「愛の挨拶」(エドワード・エルガー)、
「アヴェマリア」(ジュリオ・カッチーニ)、
「ピアノ三重奏第1番口長調1楽章」
(ヨハネス・ブラームス)

出 演：安田有沙氏 (ピアノ)、
清水 綾氏 (ヴァイオリン)、
石本卓斗氏 (チェロ)



8月2日(水)～4日(金)、21日(月)

場 所：多元数理科学棟 5階509講義室

時 間：9:30～17:00

定 員：100名

対 象：高校生、高校教員、一般

参 加 費：無料

[問い合わせ先]

多元数理科学研究科 052-789-5563

多元数理科学研究科2017年度

数学アゴラ夏季集中コース

講演題目：「科学的宇宙観の歴史」

講 演 者：泉 圭介 (基礎理論研究センター助教)

講演題目：「ピックの公式」

講 演 者：伊藤 敦 (多元数理科学研究科助教)

講演題目：「Banach-Tarskiのパラドックス」

講 演 者：鈴木悠平 (多元数理科学研究科助教)

内 容：世界の第一線で活躍する研究者でもある多元数理科学研究科の
教員が平明な言葉で数理科学について語り、数理科学の有する
魅力を紹介する



開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

8月2日(水)

場 所：減災館 1階
時 間：13:00～16:00
対 象：小学生、中学生、高校生

夏休みスペシャル減災教室2017

内 容：難しそうに聞こえる地震の話をやさしくわかりやすく解説



[問い合わせ先]

減災連携研究センター 052-789-3468

8月5日(土)、6日(日)

場 所：理学南館 1階セミナー室
時 間：10:00～16:00
定 員：各20名
対 象：中学生 (8/5)、高校生 (8/6)
参 加 費：無料

先進科学塾@名大番外講座 日本学術振興会連携事業 ひらめき☆ときめきサイエンス ～ようこそ大学の研究室へ～ KAKENHI

テ ー マ：「素粒子を見る！
—暗黒物質・ピラミッドの中も見えるかも!?—」
内 容：霧箱を使って素粒子の濃さや形を観察、最先端の測定装置がならぶ
研究現場の見学

[問い合わせ先]

未来材料・システム研究所
教授 中村光廣 052-789-3532

8月10日(木)

場 所：ES 総合館 1階 ES ホール、
ES 会議室
時 間：10:10～17:00
定 員：各20名
対 象：中学生、高校生
参 加 費：無料

日本学術振興会連携事業 ひらめき☆ときめきサイエンス ～ようこそ大学の研究室へ～ KAKENHI

テ ー マ：「のぞいてみよう！プラズマと生物と医療の不思議な世界」
内 容：プラズマについての講義、質疑応答、デモンストレーション、他

[問い合わせ先]

工学研究科
附属プラズマナノ工学研究センター
特任教授 石川健治 052-788-6077

8月19日(土)

場 所：理学研究科附属臨海実験所
(三重県鳥羽市)
時 間：11:00～16:20
定 員：20名
対 象：中学生、高校生
参 加 費：無料

日本学術振興会連携事業 ひらめき☆ときめきサイエンス ～ようこそ大学の研究室へ～ KAKENHI

テ ー マ：「ウニの受精・発生観察とその分子機構」
内 容：海岸動物を観察することで生物多様性や生態分類について学習
する。またウニ等の海岸動物を採集し受精発生のようすを観察
して、生命誕生のしくみについて習得する



[問い合わせ先]

理学部・理学研究科
臨海実験所東山分室 052-789-2514

名大トピックス No.290 平成29年7月14日発行

編集・発行／名古屋大学総務部広報渉外課

本誌に関するご意見、ご要望、受賞の掲載、記事の掲載などは広報渉外課にお寄せください。

名古屋市千種区不老町 (〒464-8601)

TEL 052-789-2699 FAX 052-788-6272 E-mail kouho@adm.nagoya-u.ac.jp

表紙

留学生も参加する
スモールワールド・
コーヒアワーの
様子
(平成29年5月26日)



名大トピックスのバックナンバーは、名古屋大学のホームページ (<http://www.nagoya-u.ac.jp/about-nu/public-relations/publication/index.html>) でもご覧いただけます。

183 学生の東海地域出身率100年の変遷

名古屋大学は、旧帝国大学の中では所在地域出身の学生が多い大学として知られています。2016(平成28)年の学部入学者では、愛知県が51.6%、東海三県(愛知・岐阜・三重)が65.2%を占め、静岡県を加えた東海四県では71.5%に達します。今回は、前身大学以来の、学部学生の東海地域出身率の変遷を見ていきます。

1920(大正9)年に設置された県立愛知医科大学の時代は、年によってかなりのばらつきがありますが、29(昭和4)年が入学者に占める愛知県出身の割合が最も多く48.0%、東海四県出身は66.7%でした。31年に設置された官(国)立名古屋医科大学では低下傾向にあり、最後の38年は愛知県が29.6%、東海四県が37.0%でした。

1939年には名古屋帝国大学が創立されます。しかし1942年における在學生(臨時附属医学専門部除く)の東海四県の比率は27.3%と、所在地域出身の学生はそれほど多くなく、現在とは比べるべくもありませんでした。

これが劇的に変わるのは戦後です。1953年度には、愛知県だけで入学者の73.8%、東海四県では実に93.9%を占めていました。その後も、65年あたりまでは同じような状況が続きます。この時期は、名古屋市出身者だけで全体の約半数を占めたことも特徴でした。

1970年代以降は、比較的上下動はあるものの、愛知県が55~60%程度、東海三県が75%前後の状態がしばらく続きます。同時に、名古屋市の割合がそれ以前より低下してきました。90年代に入ると比率がやや下がり、愛知県50%前後、東海三県65~70%程度、東海四県70~75%程度で推移する状況が現在まで続いています。

旧帝国大学の中では、九州大学も福岡県37.4%、九州七県67.3%(2016年入学者)と高い数字ですが、名大の方が一県もしくは狭い地域への集中度が著しいといえます。なぜ戦後の名大には一貫して東海地域出身の学生が多いのか。名大史の大きな謎の1つです。



1	2	3
4	5	

- 1 外科の臨床講義を受ける愛知医科大学の学生たち。当時は医学を学べる大学が少ないうえに東京に集中しており、現在の中部九県では愛知医大のほか、金沢医大、新潟医大しかなかった。
- 2 実験装置と名帝大工学部の学生たち。工学部と理学部はそれぞれ21.9%、20.8%と、東海四県出身者の比率が特に低かった。
- 3 瑞穂キャンパス(教養部)でのコンパ(1955年)。戦後に地元出身者が激増した理由の1つとして、新制大学として各都道府県に1つずつ国立総合大学が設置されたことが考えられる。
- 4 1987年の卒業式の日。地元出身者の比率は男子より女子の方が高く、この頃(1986年度)の女子の東海四県出身者は91.4%とかなり高い。現在(2016年)も77.9%と男子より9%ほど高くなっている。
- 5 名大祭で盛り上がる学生たち(2007年)。2006~08年の入学者は東海三県出身者が70~71%、東海四県出身者が76%台と高い数字で推移したが、この時期に比べると現在はやや低下している。